

V 調査結果の詳細

— 幼児・小学生（保護者） —

I 子どものことについて

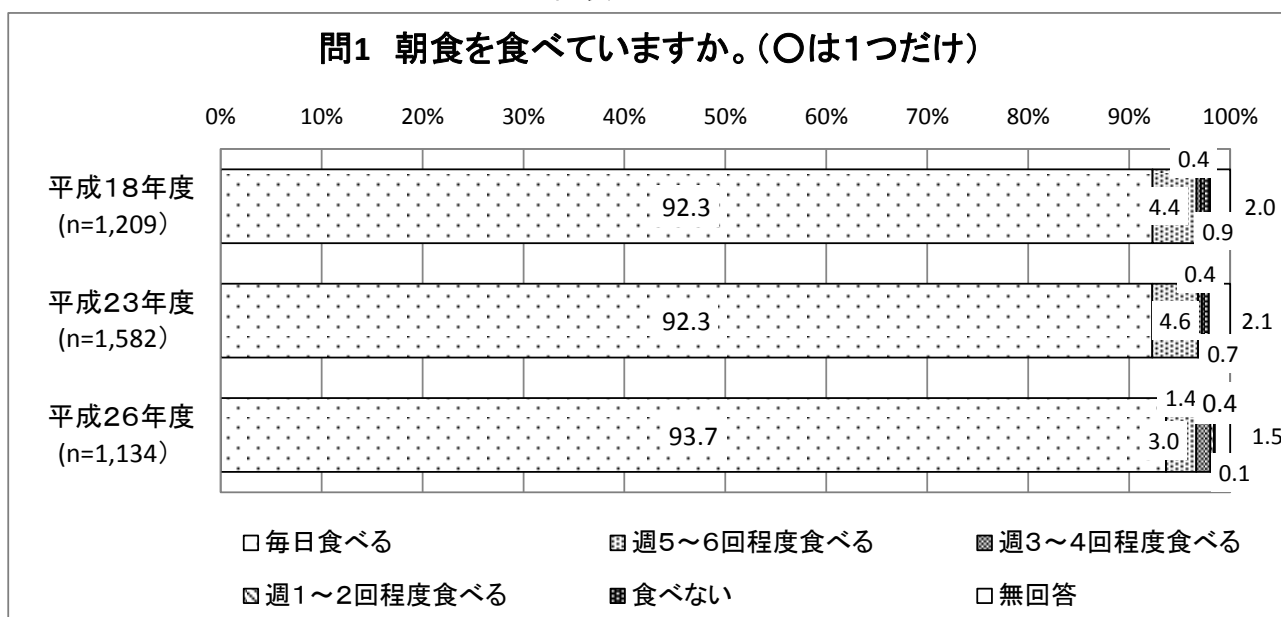
(1) 朝食摂取度

1 お子さまは朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が9割以上

朝食の摂取状況は、「毎日食べる」(93.7%)が9割を超え、平成23年度調査の水準を維持している。また、「食べない」については減少傾向にあり、本調査では0.1%となった。(図表Ⅲ-1-1)

図表Ⅲ-1-1



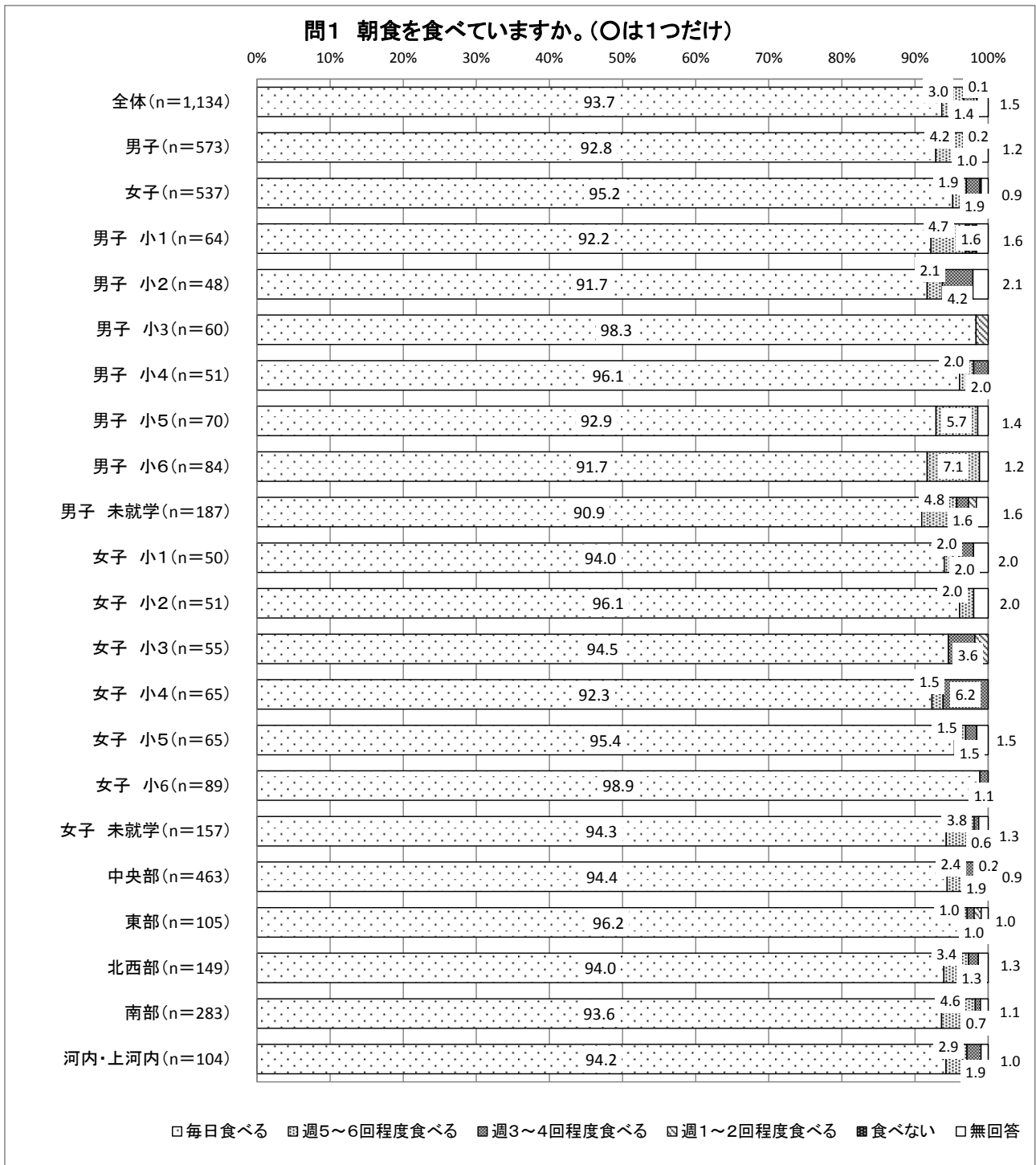
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「週5～6回程度食べる」の割合で男子（4.2%）が女子（1.9%）に比べ若干高くなっている。

子どもの性・学年別では、大きな差は見られないが、「男子小1」の「食べない」の割合が1.6%と、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－2）

図表Ⅲ－1－2



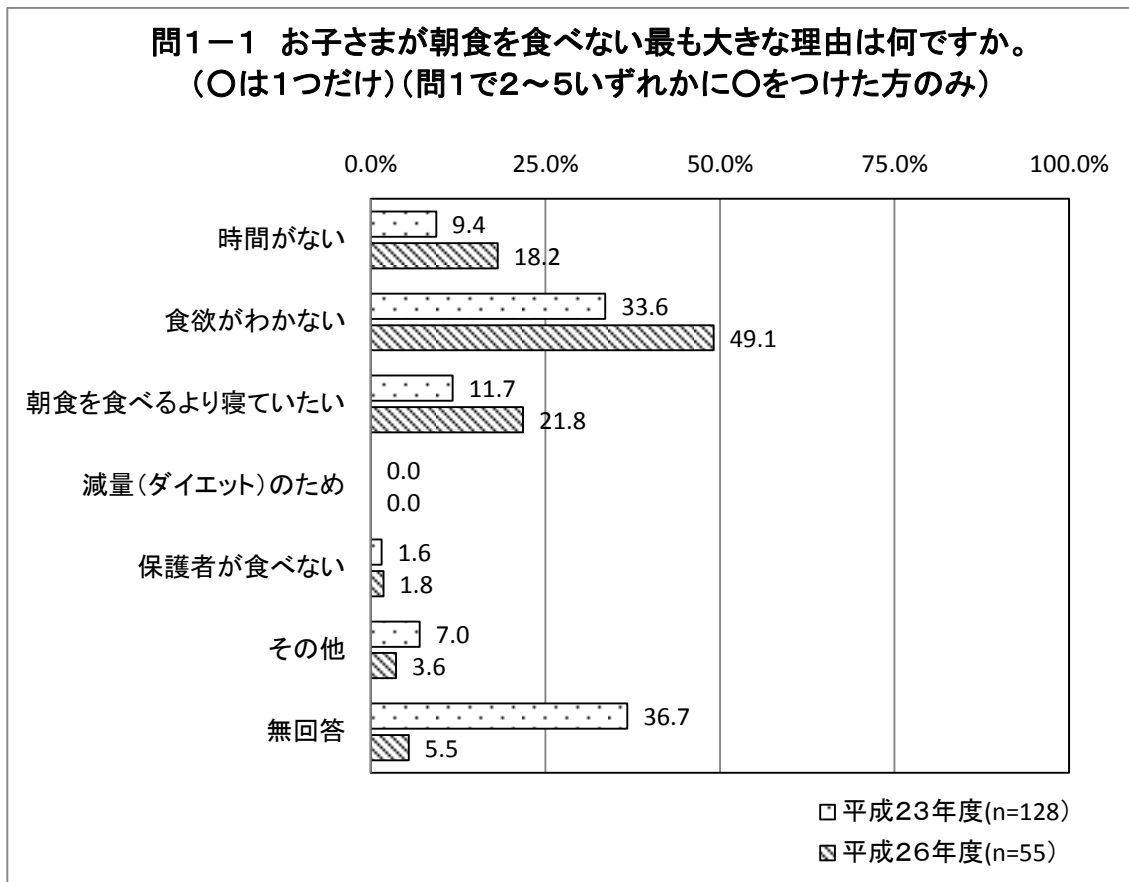
(1-1) 朝食を食べない理由

1-1 お子さまが朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「食欲がわからない」が約半数

前問で子どもが朝食を毎日食べないと答えた人にその理由を聞いたところ、「食欲がわからない」が49.1%と最も多くなっている。次いで、「朝食を食べるより寝ていたい」(21.8%)、「時間がない」(18.2%)となっている。(図表Ⅲ-1-3)

図表Ⅲ-1-3

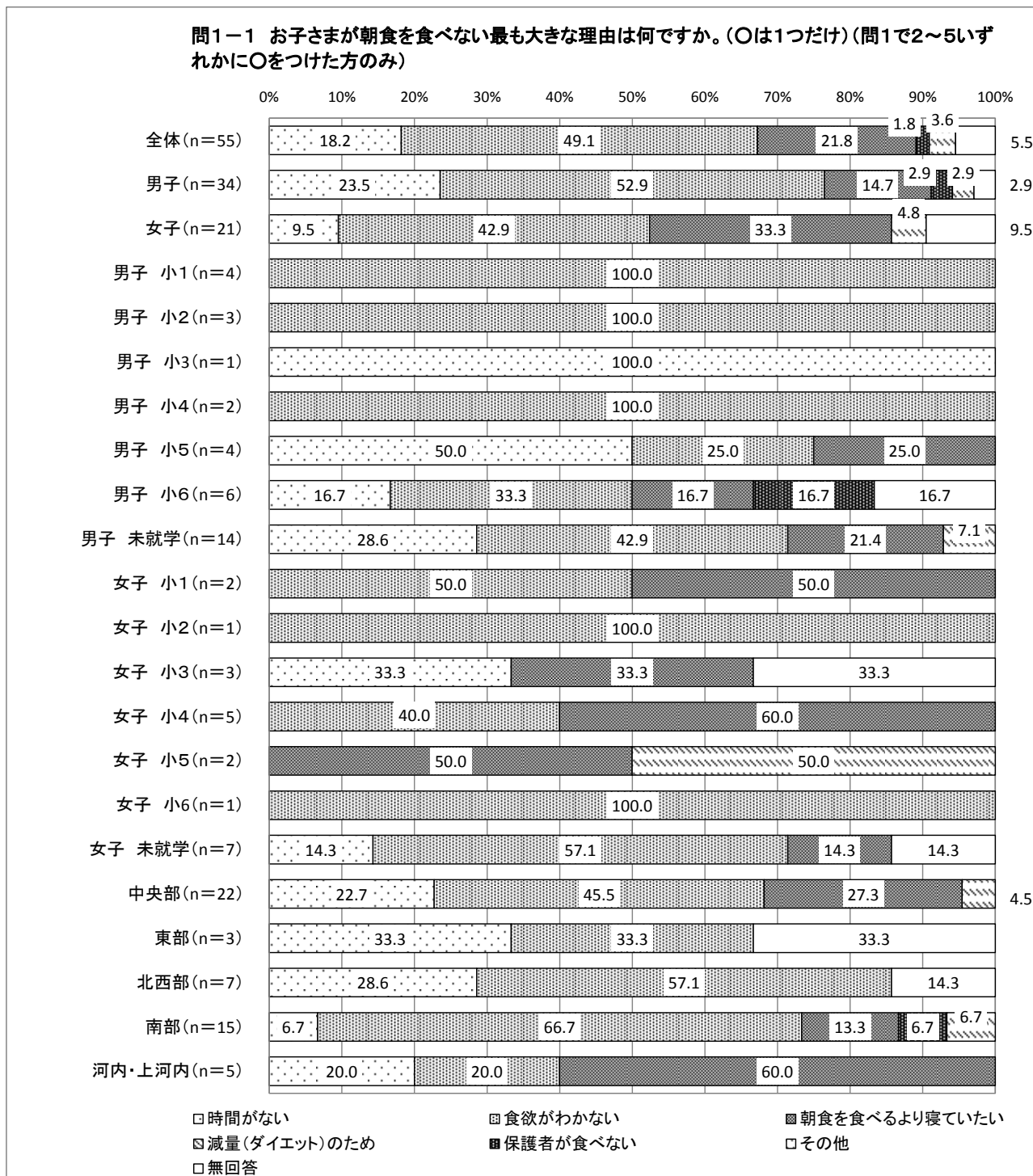


【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「時間がない」、「食欲がわかない」、「保護者が食べない」で男子の方が高く、女子では「朝食を食べるより寝ていたい」の割合が高くなっている。

居住地区別では、ほとんどの地区で「食欲がわかない」が最も多くなっている。(図表Ⅲ－1－4)

図表Ⅲ－1－4



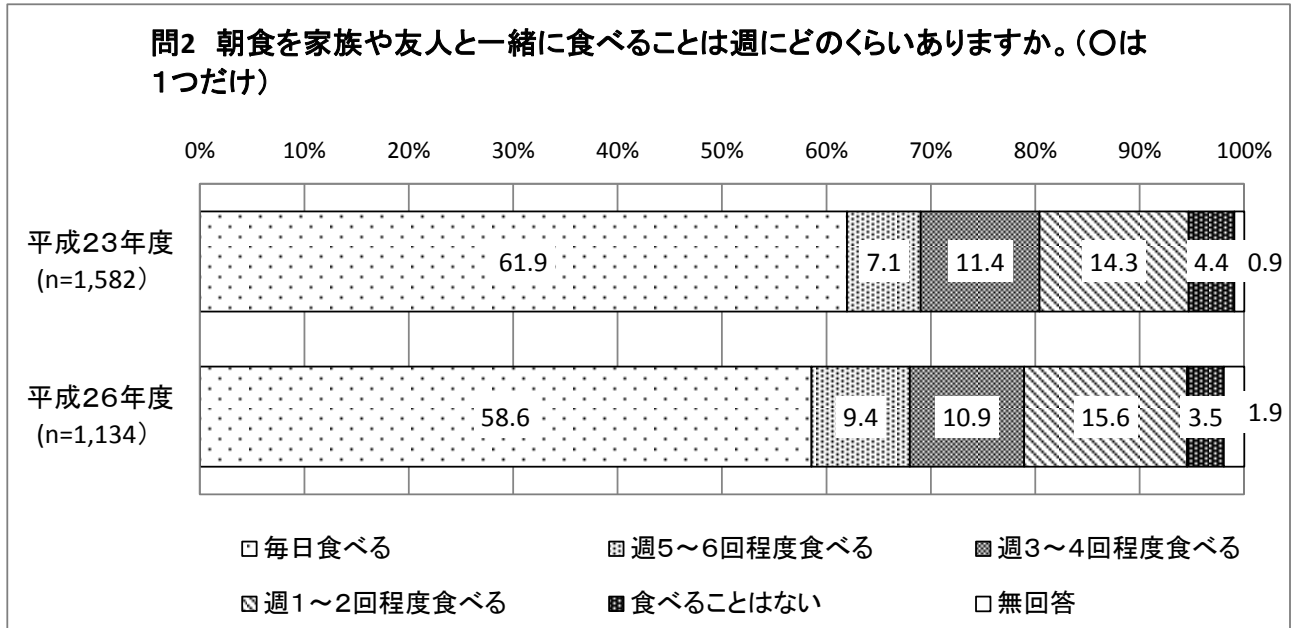
(2) 家族との朝食（共食）

2 お子さまが朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割

子どもが朝食を家族と食べる機会は、「毎日食べる」（58.6%）と約6割を占めており、平成23年度調査からは微減となった。また、「食べることはない」の割合も微減となった。（図表Ⅲ－1－5）

図表Ⅲ－1－5



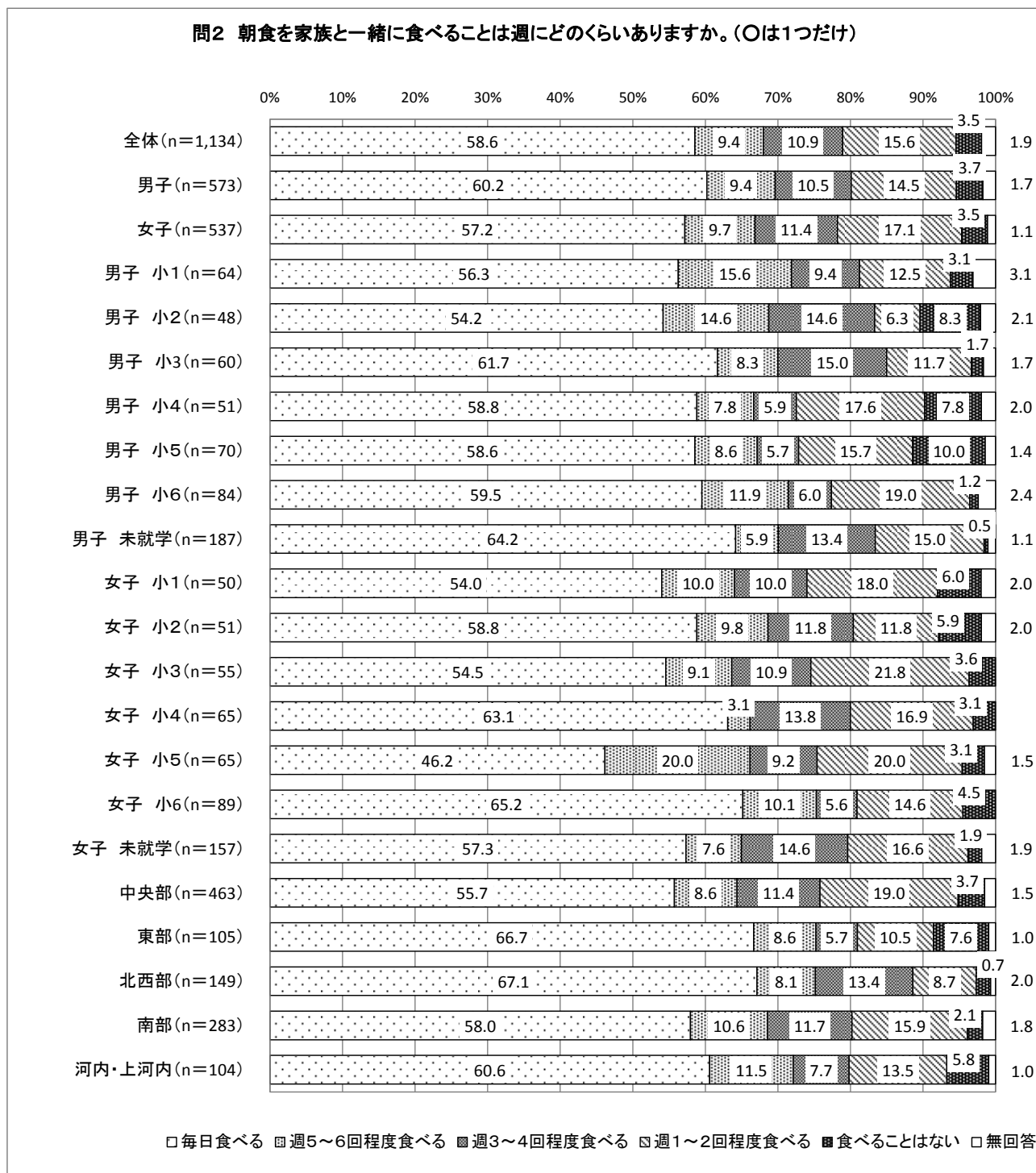
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「毎日食べる」の割合はどの学年でも半数以上となっているが、「女子小5」で半数以下となっている。

居住地区別では、「毎日食べる」は全地区で6割前後となっている。(図表Ⅲ-1-6)

図表Ⅲ-1-6



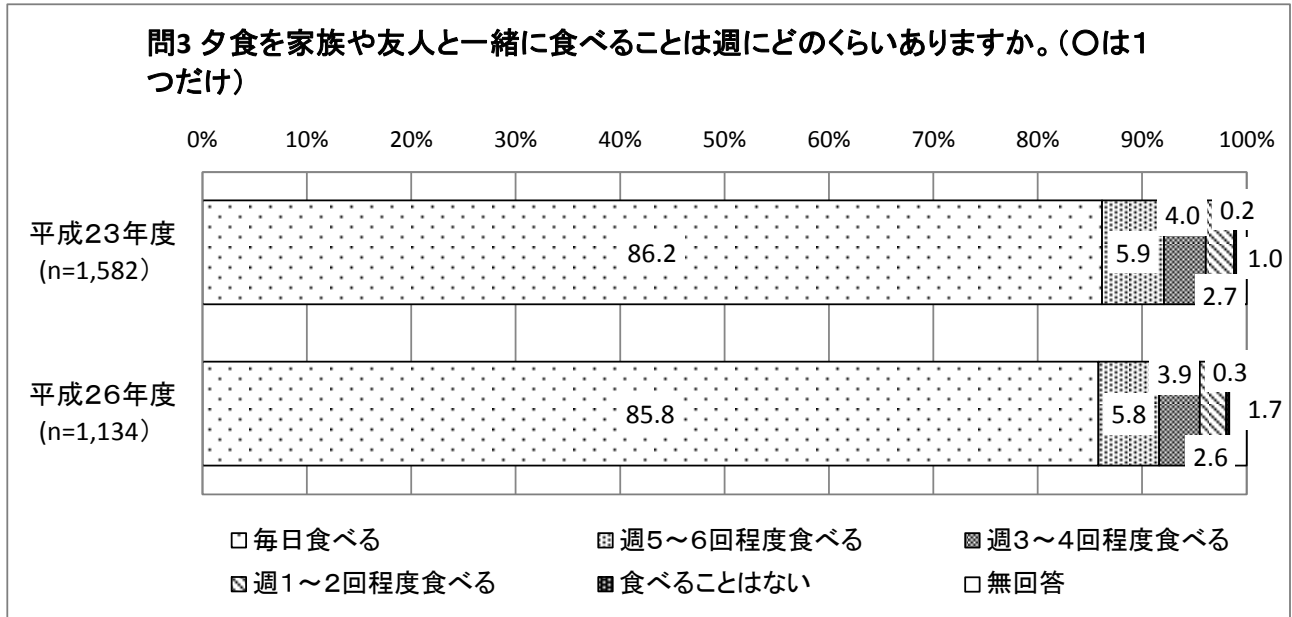
(3) 家族との夕食（共食）

3 お子さまが夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が8割強

子どもが夕食を家族と食べる機会は、「毎日食べる」（85.8%）が8割を超える高い割合を示し、平成23年度調査とほぼ同様の割合となっている。（図表Ⅲ－1－7）

図表Ⅲ－1－7



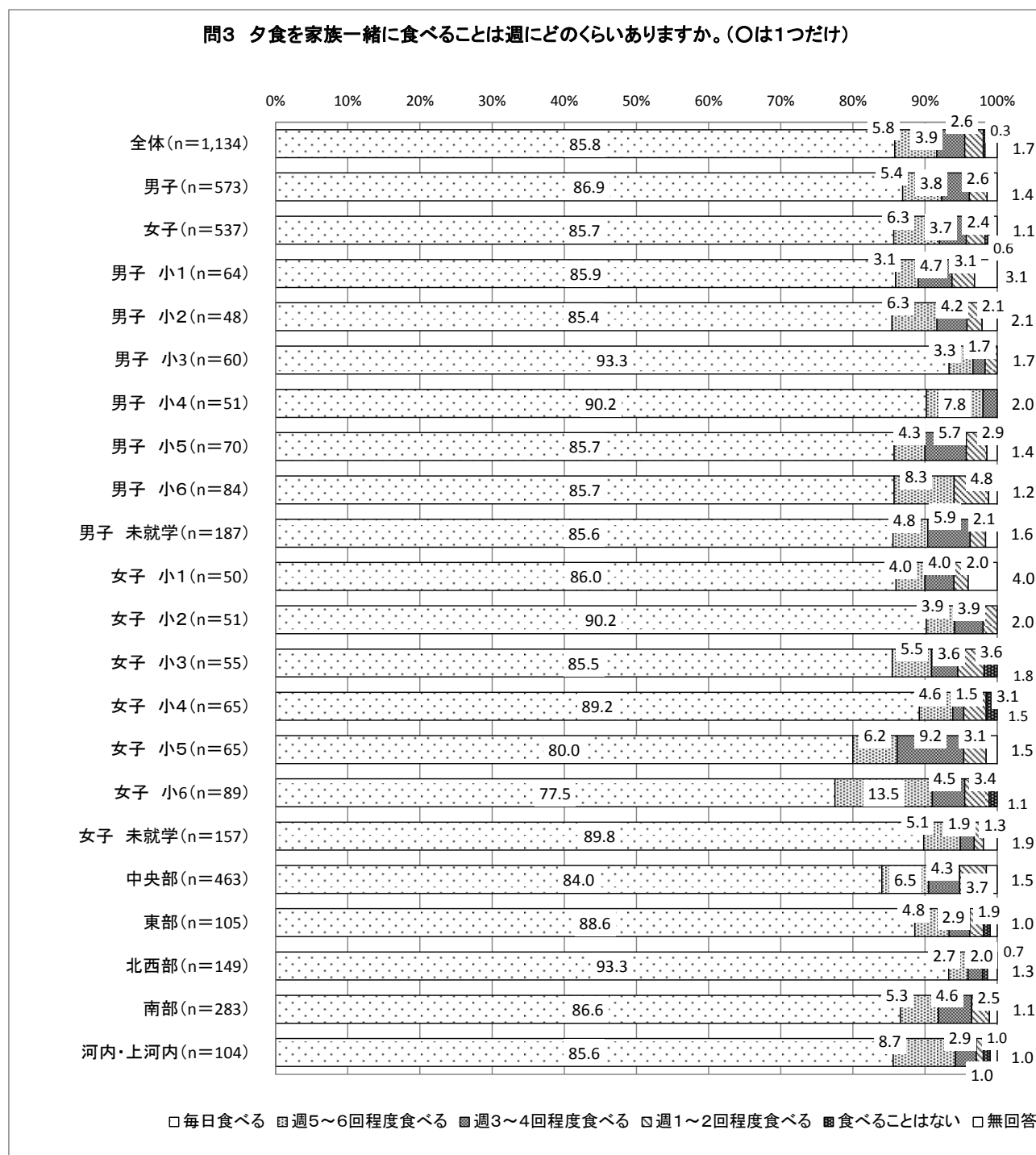
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、どの学年においても「毎日食べる」の割合は8割以上となっているが、「女子小6」で8割以下となっている。

居住地区別では、「北西部」で「毎日食べる」の割合が9割以上となっている。(図表Ⅲ－1－8)

図表Ⅲ－1－8



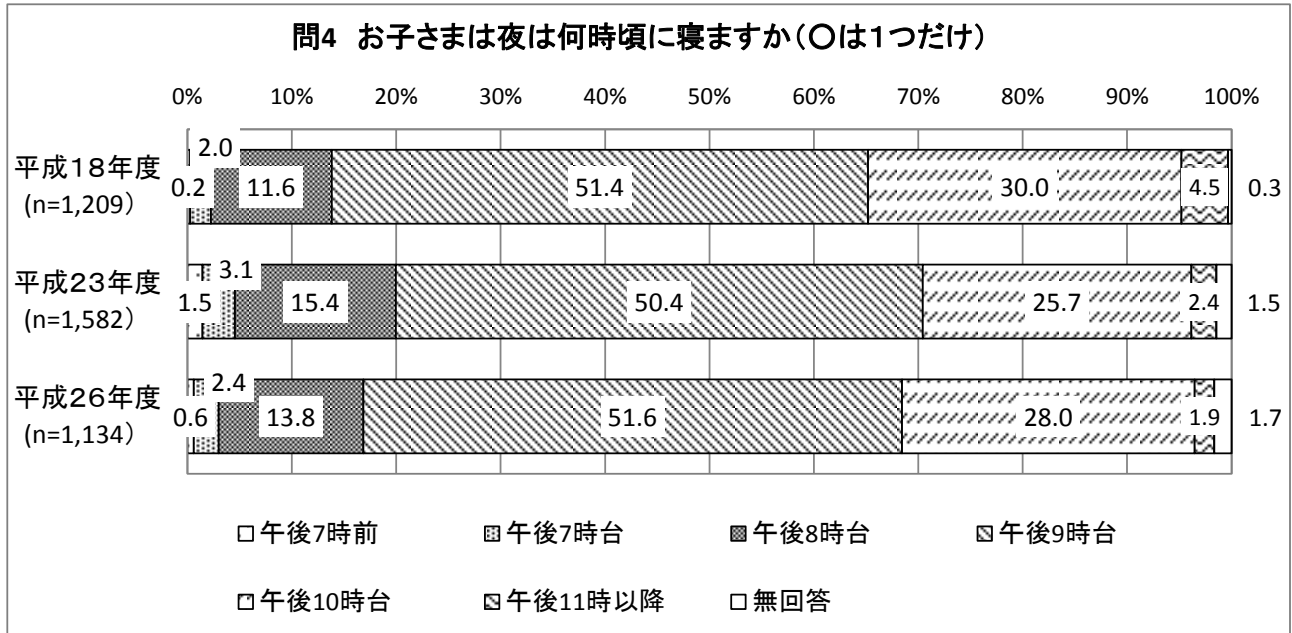
(4) 就寝時刻

4 お子さまは夜の何時頃に寝ますか。

◆「午後9時台」が約半数

就寝時刻は、「午後9時台」(51.6%)が過半数を占めている。平成23年度調査と比べると、「午後10時台」(28.0%)が微増している。(図表Ⅲ-1-9)

図表Ⅲ-1-9



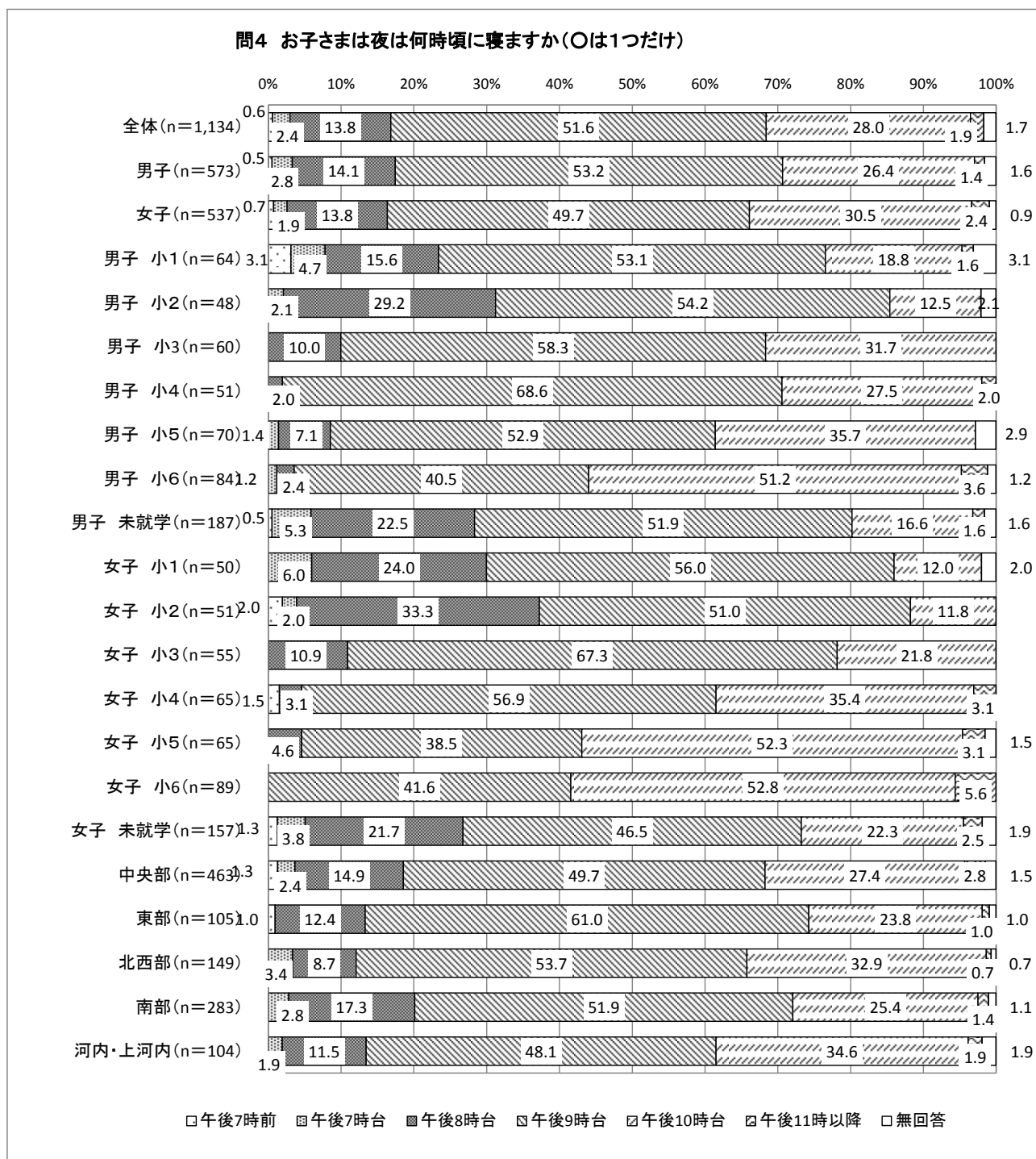
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、男女とも、小学2年以下は「午後8時台」が2～3割台となっており、学年が上がるに従い、「午後10時台」が増加する傾向にある。

居住地区別では、全地区で「午後9時台」が5割前後となっているが、「東部」では6割を超えている。(図表Ⅲ－1－10)

図表Ⅲ－1－10



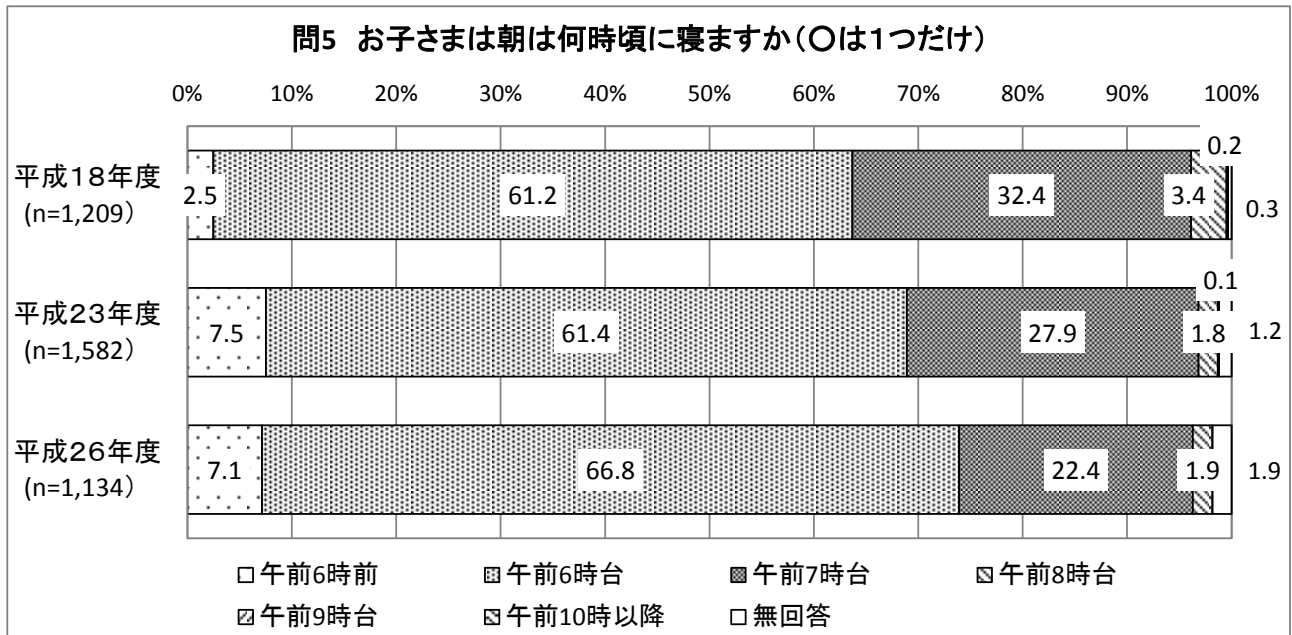
(5) 起床時刻

5 お子さまは朝の何時頃に起きますか。

◆「午前6時台」が6割

起床時刻は、「午前6時台」(66.8%)が6割を占め、次いで「午前7時台」(22.4%)となっている。平成23年度調査と比べると、「午前6時台」は約5%増加している。(図表Ⅲ-1-11)

図表Ⅲ-1-11



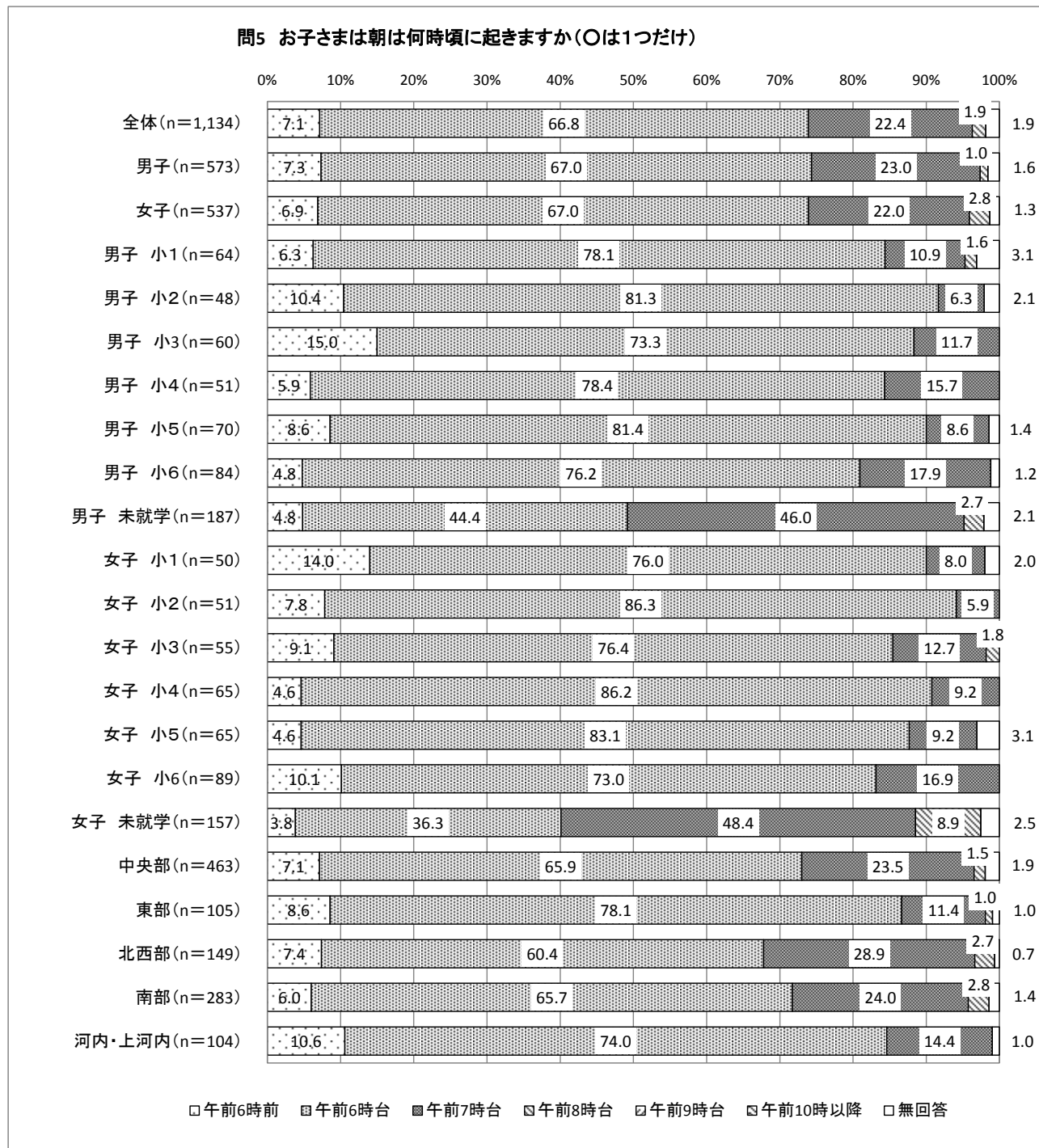
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、男女ともに未就学で「午前7時台」の割合が高く、4割台半ばとなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「午前6時台」が74.0%、「午前6時前」が10.6%、また、「東部」で「午前6時台」が78.1%、「午前6時前」が8.6%と他地区より高い割合となっている。
(図表Ⅲ-1-12)

図表Ⅲ-1-12



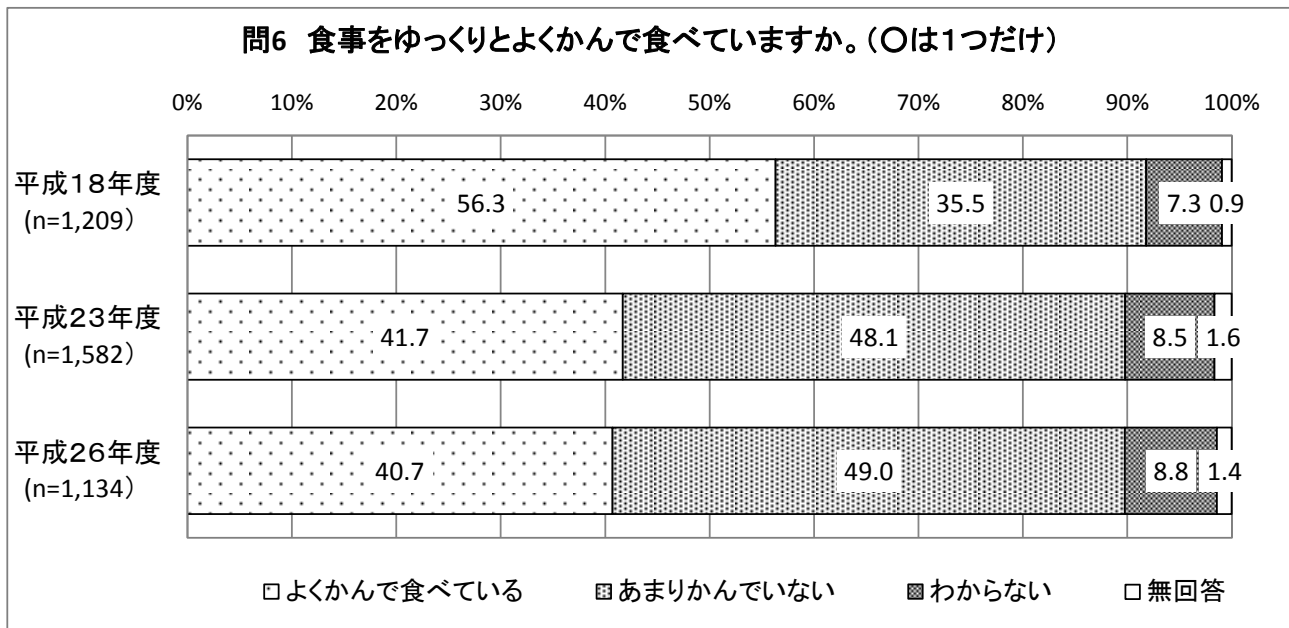
(6) 咀嚼

6 お子さまは食事をゆっくりとよくかんで食べますか。

◆「あまりかんでいない」が約半数

食事の咀嚼に関しては、平成23年度調査と比較するとほぼ同様の結果となったが、平成18年度調査と比較すると、「よくかんで食べている」の割合は56.3%と半数を占めていたのに対し、本調査では、40.7%と、減少の傾向にある。(図表Ⅲ-1-13)

図表Ⅲ-1-13



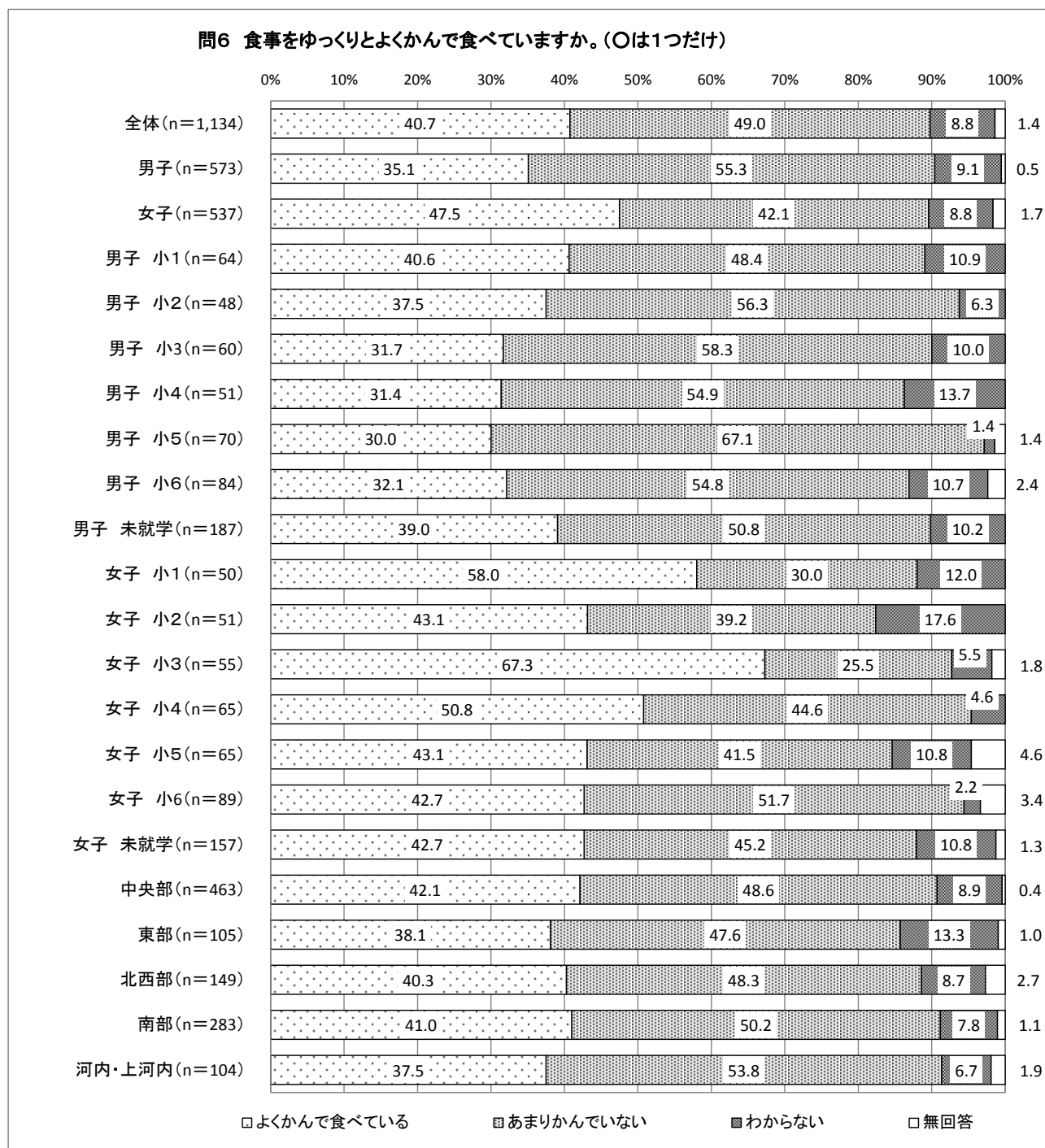
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「よくかんで食べている」割合は、女子（47.5%）が男子（35.1%）より約12%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「女子小1」から「女子小5」では、「よくかんで食べている」が「あまりかんでいない」を上回っている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－14）

図表Ⅲ－1－14



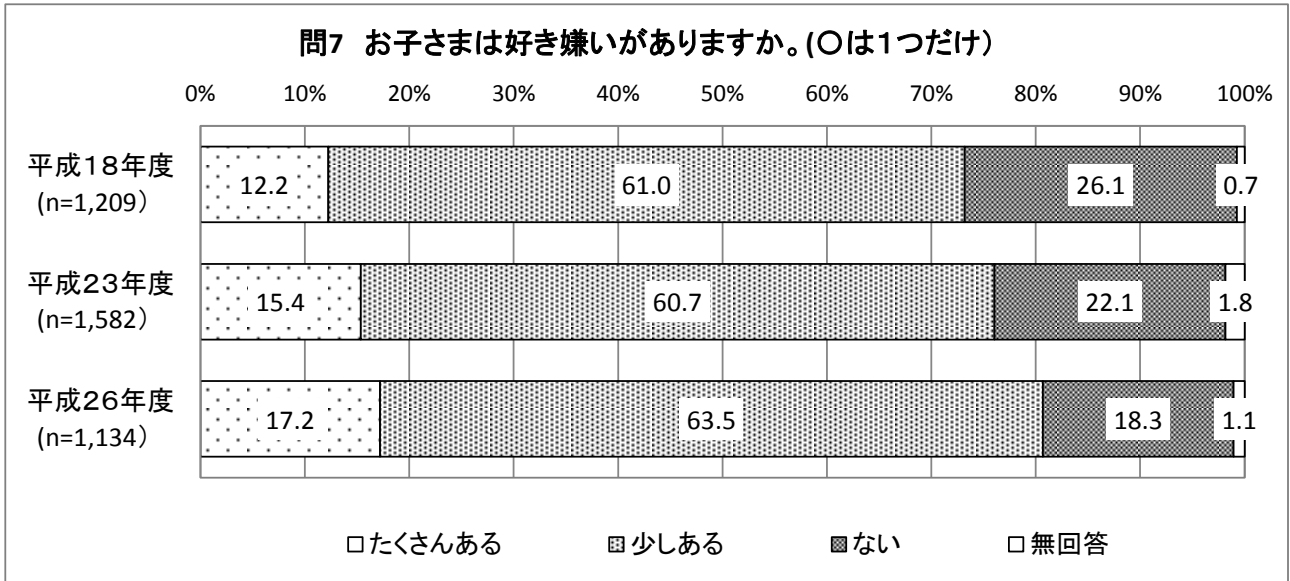
(7) 好き嫌い

7 お子さまは好き嫌いがありますか。

◆「好き嫌いがある」が増加

好き嫌いに関しては、「好き嫌いがある」（「たくさんある」と「少しある」の合計）が80.7%となっており、平成18年度調査、平成23年度調査から増加傾向にある。（図表Ⅲ－1－15）

図表Ⅲ－1－15



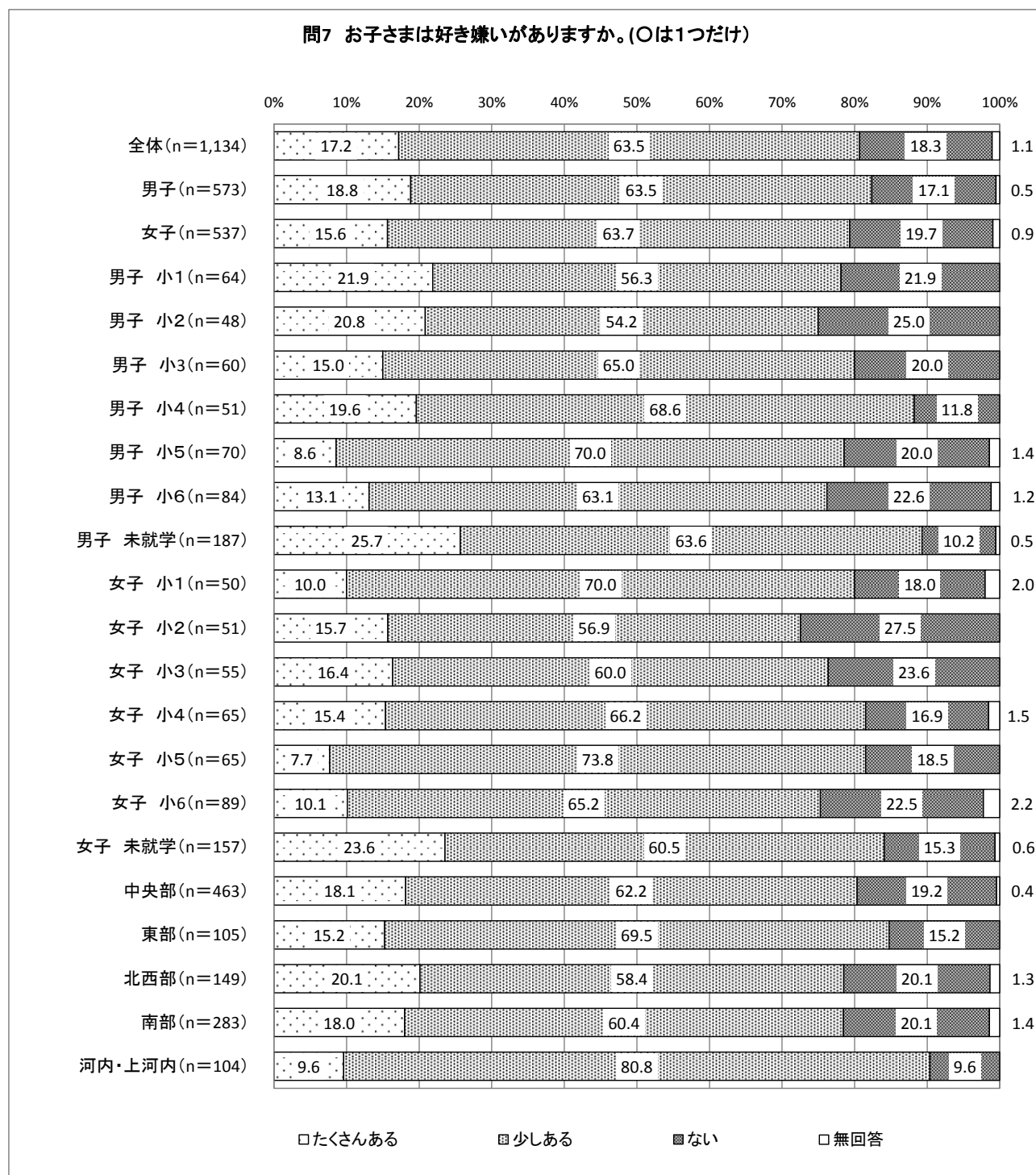
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「好き嫌いがたくさんある」の割合は、「男子未就学」(25.7%)、「女子未就学」(23.6%)、「男子小1」(21.9%)、「男子小2」(20.8%)で2割以上見られる。

居住地区別では、「河内・上河内」では「好き嫌いがたくさんある」は9.6%と他地区に比べ低い割合となっている。(図表Ⅲ－1－16)

図表Ⅲ－1－16



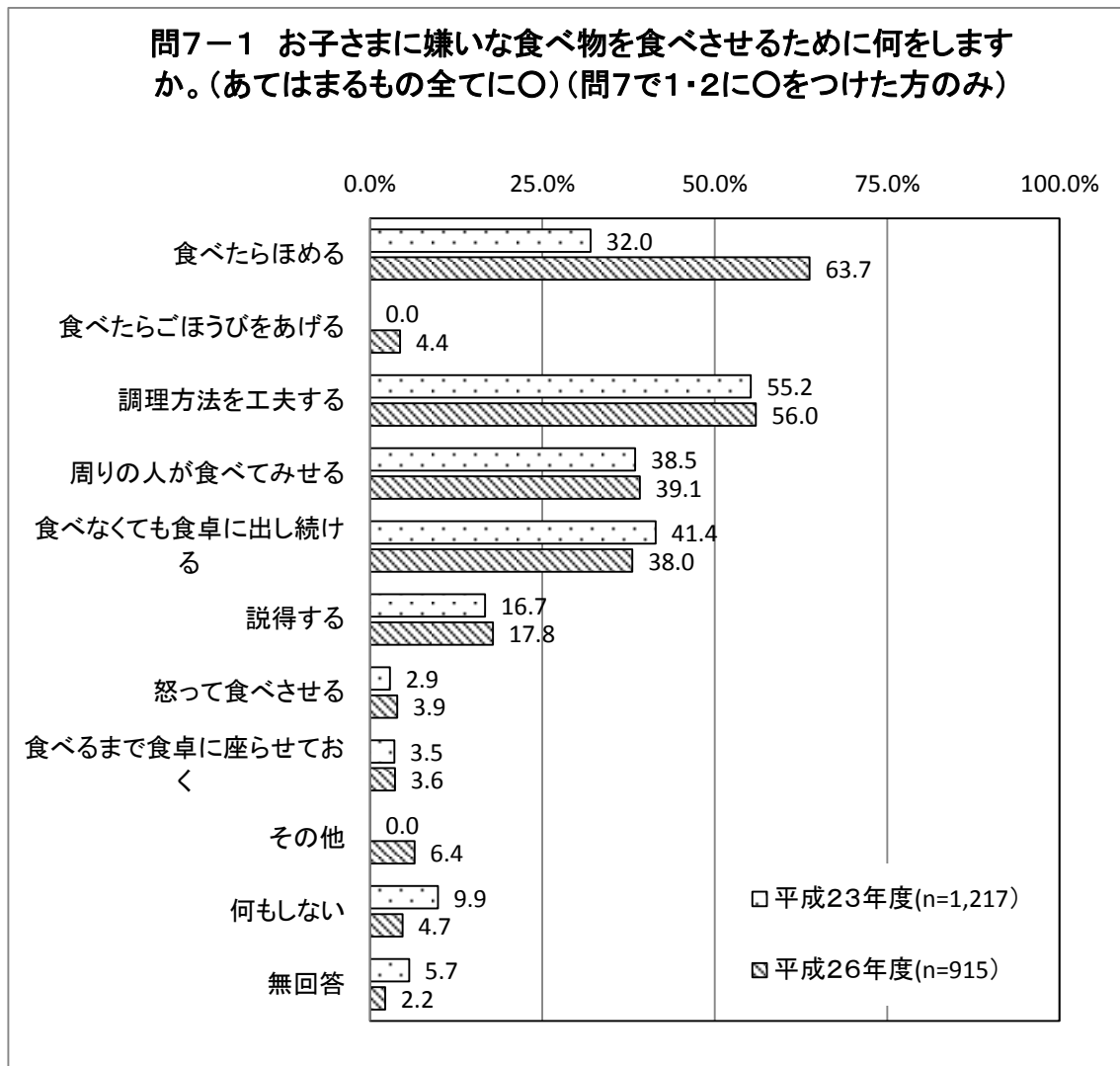
(7-1) 嫌いなものを食べさせる工夫

7-1 お子さまに嫌いな食べ物を食べさせるために何をしますか。

◆「食べたらほめる」が増加

前問で「ある」と答えた人の、嫌いな食べ物を食べさせる工夫に関しては、「食べたらほめる」(63.7%)が最も多く、平成23年度調査から増加している。次いで「調理方法を工夫する」(56.0%)、「周りの人が食べてみせる」(39.1%)となっている。(図表Ⅲ-1-17)

図表Ⅲ-1-17



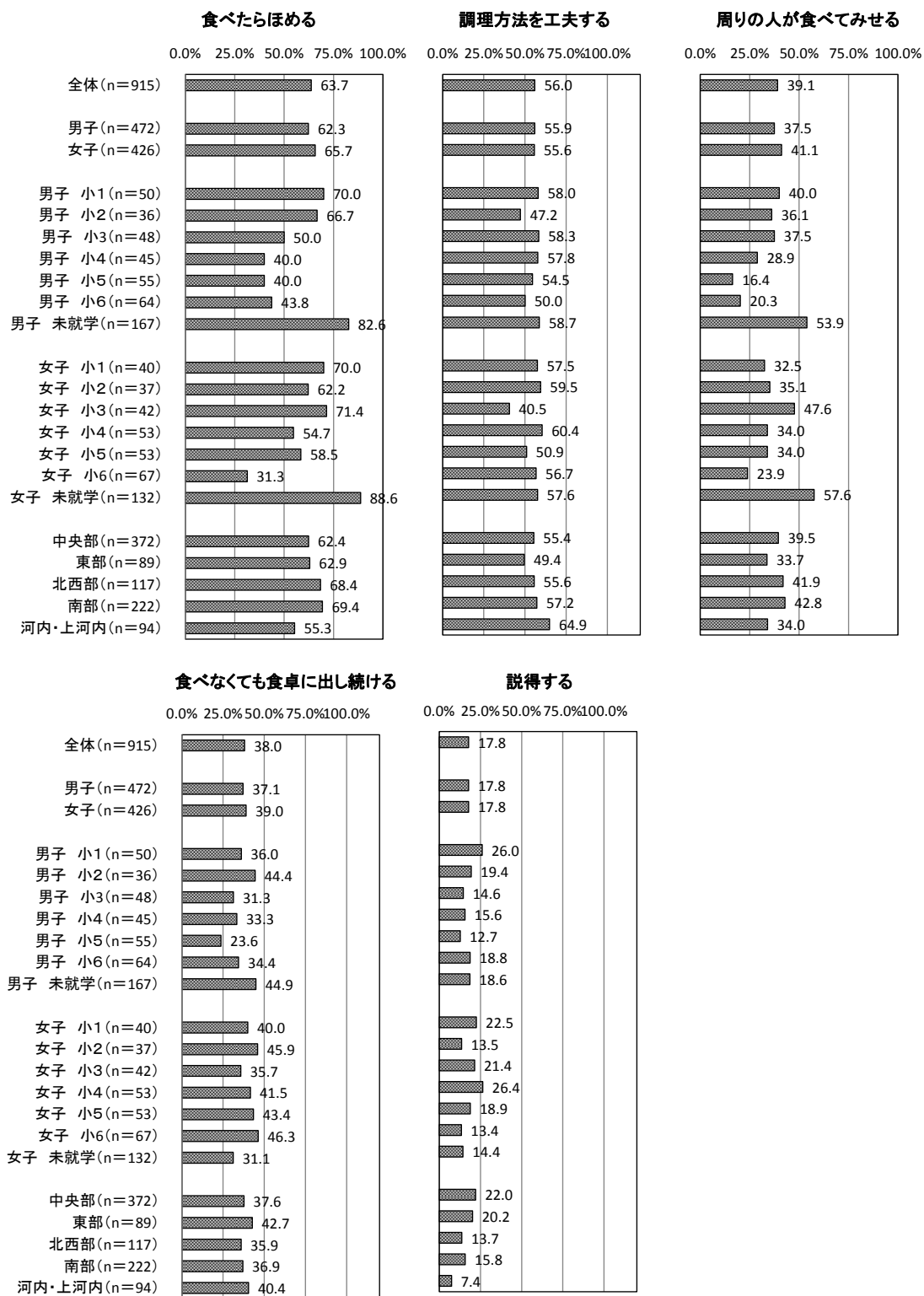
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女ともに「食べたらほめる」が最も多くなっている。

子どもの性・学年別では、男女ともに「食べたらほめる」の割合は、学年が上がるほど、割合が低くなる傾向にある。

居住地区別では、大きな差はないが、「河内・上河内」の「説得する」の割合が他地区に比べ低くなっている。(図表Ⅲ－1－18)

図表Ⅲ－1－18



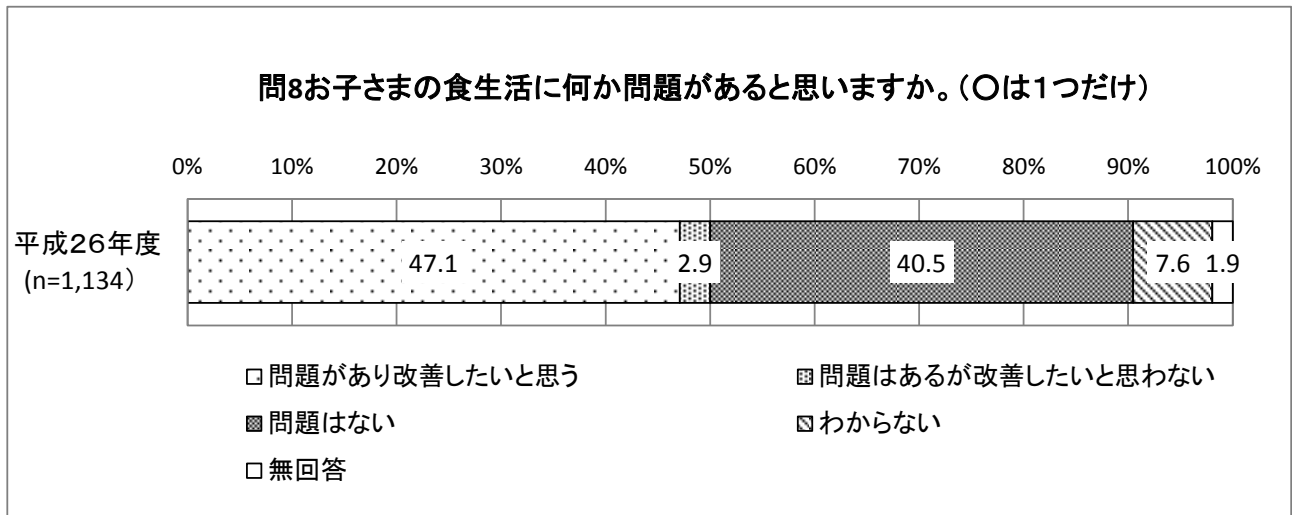
(8) 食生活の問題点の有無

8 お子さまの食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題があり改善したい」が約半数

お子さまの食生活に問題があるか聞いたところ、「問題があり改善したい」(47.1%)が最も多く、次いで「問題はない」(40.5%)となっている。(図表Ⅲ-1-19)

図表Ⅲ-1-19



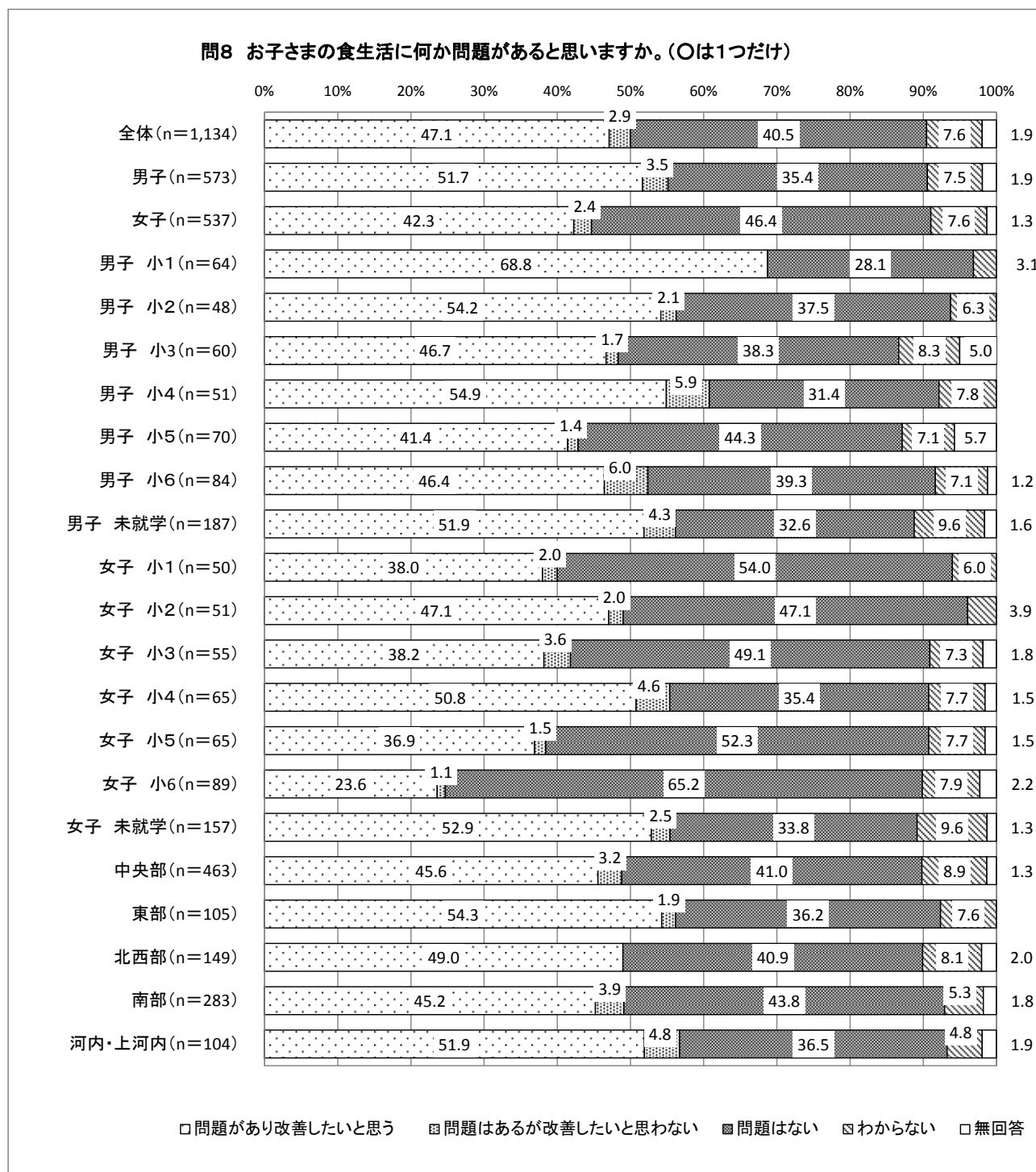
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「問題がある」（「問題があり改善したいと思う」と「問題はあるが改善したいと思わない」の合計）は、男子（55.2%）が女子（44.7%）より約10%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「問題がある」の割合は、「男子小1」で最も高く、68.8%となっている。また、「女子小1」と「女子小5」で「問題はない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、地区間の大きな差は見られない。（図表Ⅲ－1－20）

図表Ⅲ－1－20



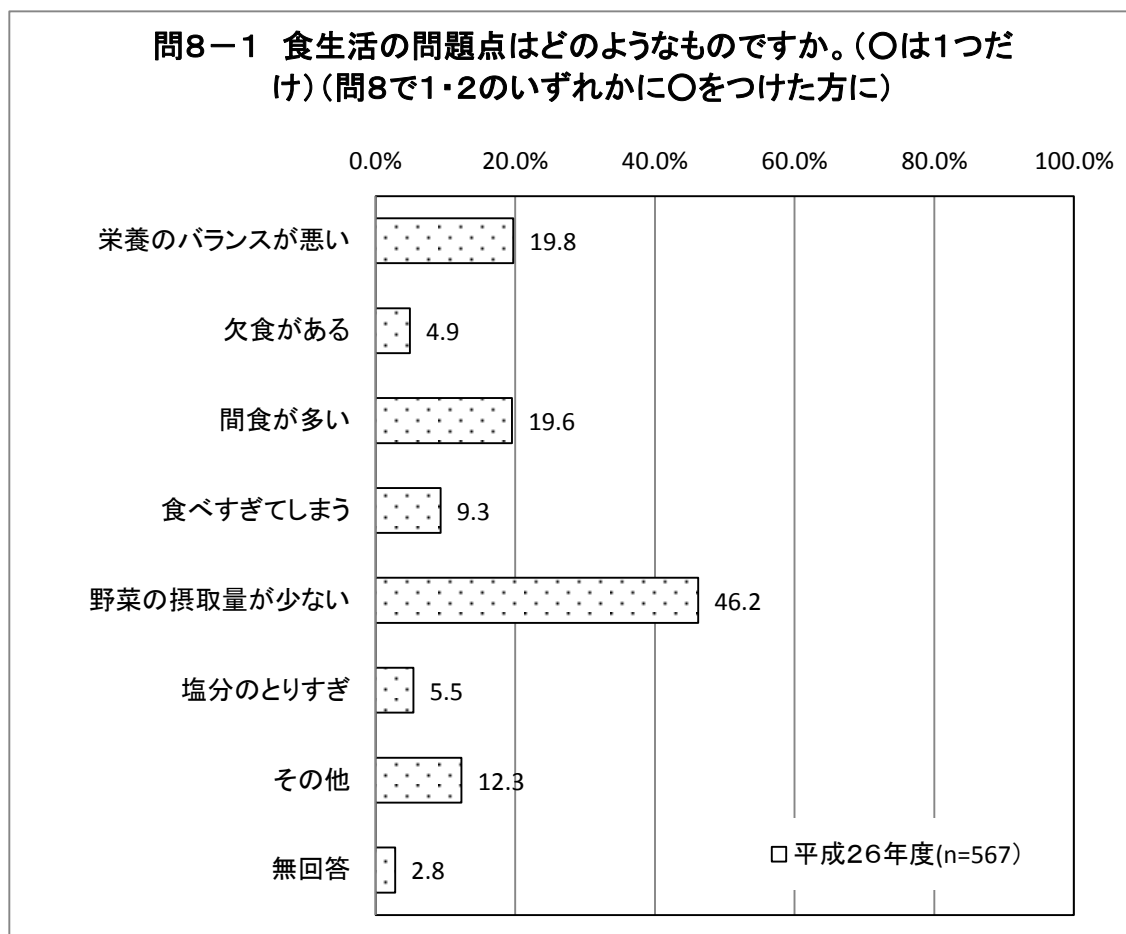
(8-1) 問題点の内容

8-1 食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「野菜の摂取量が少ない」が約半数

前問で「問題がある」と答えた人に問題点を聞いたところ、「野菜の摂取量が少ない」(46.2%)が最も多く、次いで「栄養のバランスが悪い」(19.8%)、「間食が多い」(19.6%)となっている。(図表Ⅲ-1-21)

図表Ⅲ-1-21



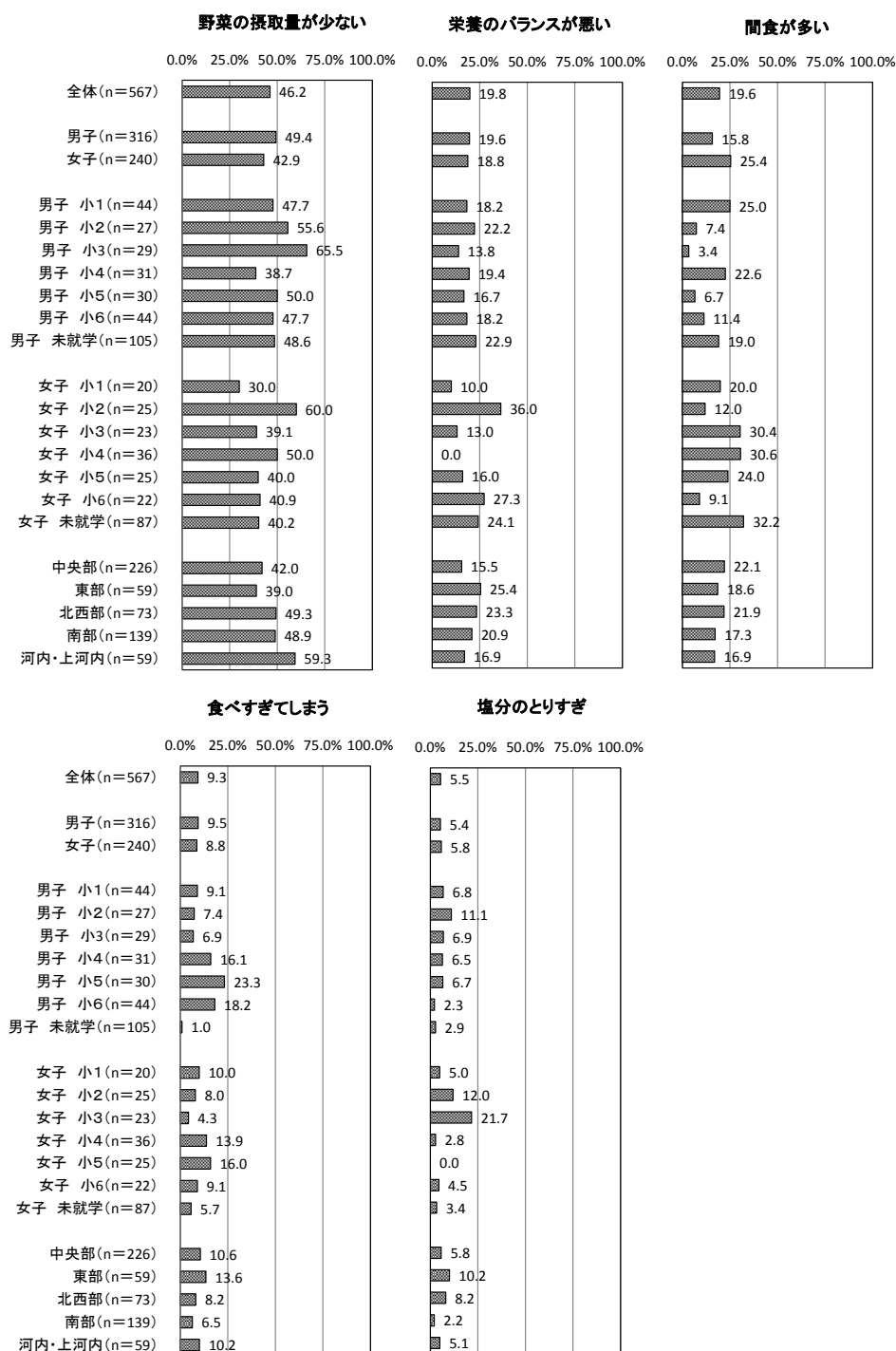
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「間食が多い」の割合で、女子（25.4%）が男子（15.8%）より約10%高くなっている。

子どもの性・学年別では、男子の「小4」、女子の「小1」と「小3」以外で「野菜の摂取量が少ない」の割合が高くなっている。また、「女子小3」で「塩分のとりすぎ」が他の学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「野菜の摂取量が少ない」、「東部」の「食べすぎてしまう」が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅲ－1－22）

図表Ⅲ－1－22



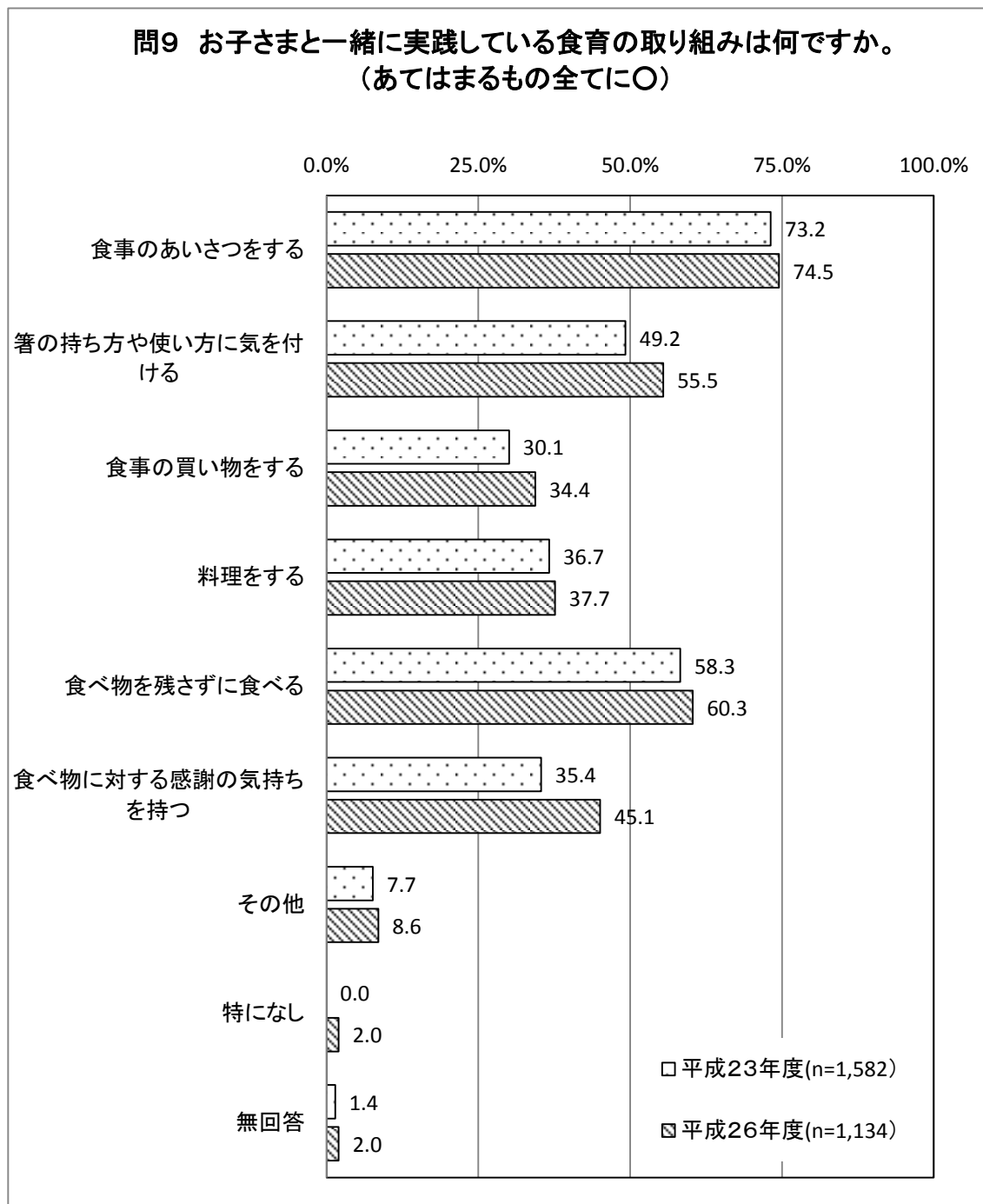
(9) 実践している食育

9 お子さまと一緒に実践している食育の取組は何ですか。

◆「食べ物に対する感謝の気持ちを持つ」が増加

食育の取組に関しては、「食事のあいさつをする」(74.5%)が最も多く、次いで「食べ物を残さずに食べる」(60.3%)、「箸の持ち方や使い方に気を付ける」(55.5%)となっている。また、「食べ物に対する感謝の気持ちを持つ」が平成23年度調査では35.4%だったのに対し、本調査では45.1%と約10%増加している。(図表Ⅲ-1-23)

図表Ⅲ-1-23



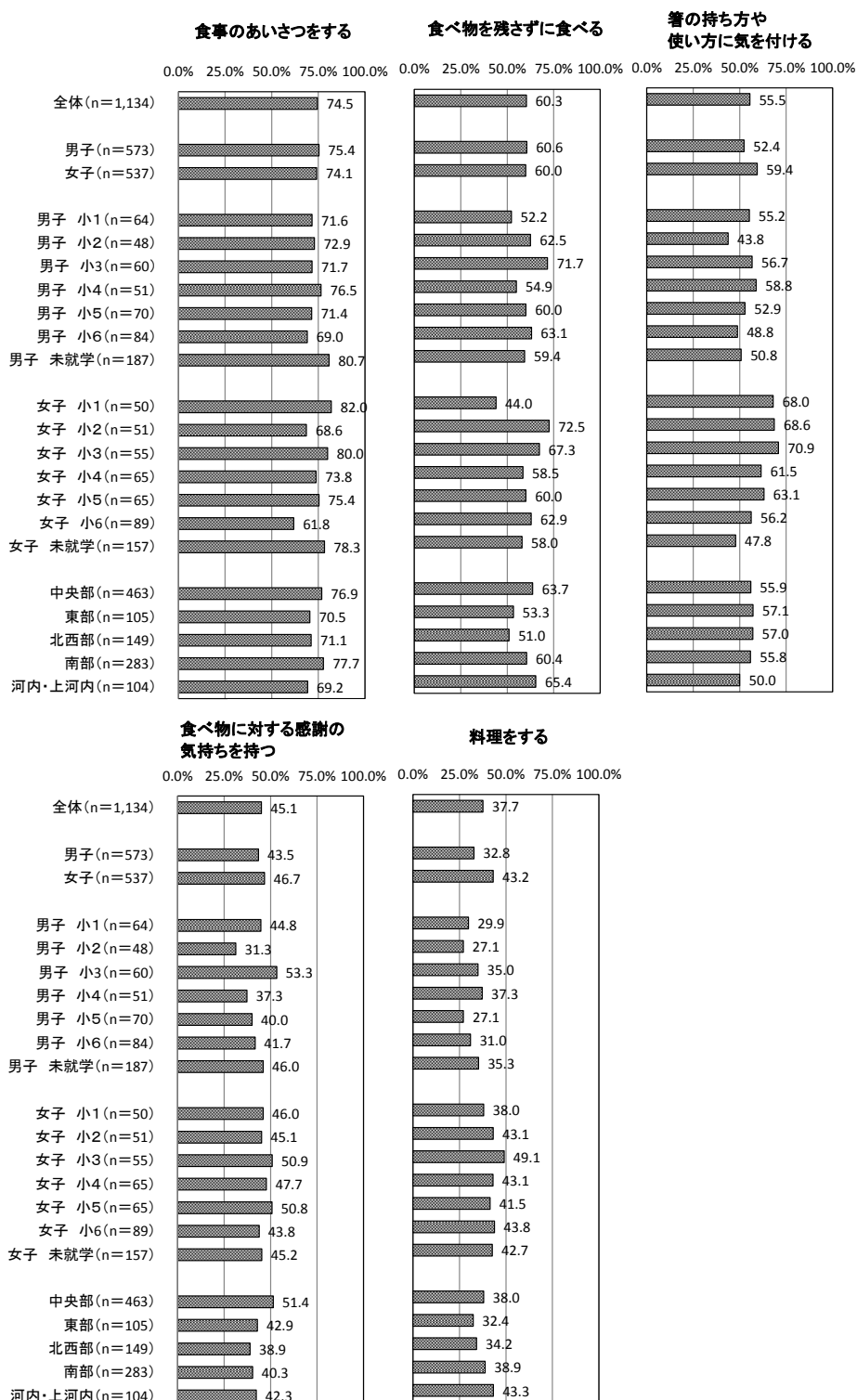
【子どもの性別／子どもの性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「料理をする」の割合で、女子(43.2%)が男子(32.8%)より約10%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「女子小1」で「食べ物を残さずに食べる」(44.0%)が他の学年より低くなっている。

居住地区別では、「中央部」で「食べ物に対する感謝の気持ちを持つ」の割合が、他地区に比べて高くなっている。(図表Ⅲ-1-24)

図表Ⅲ-1-24



II 保護者のことについて

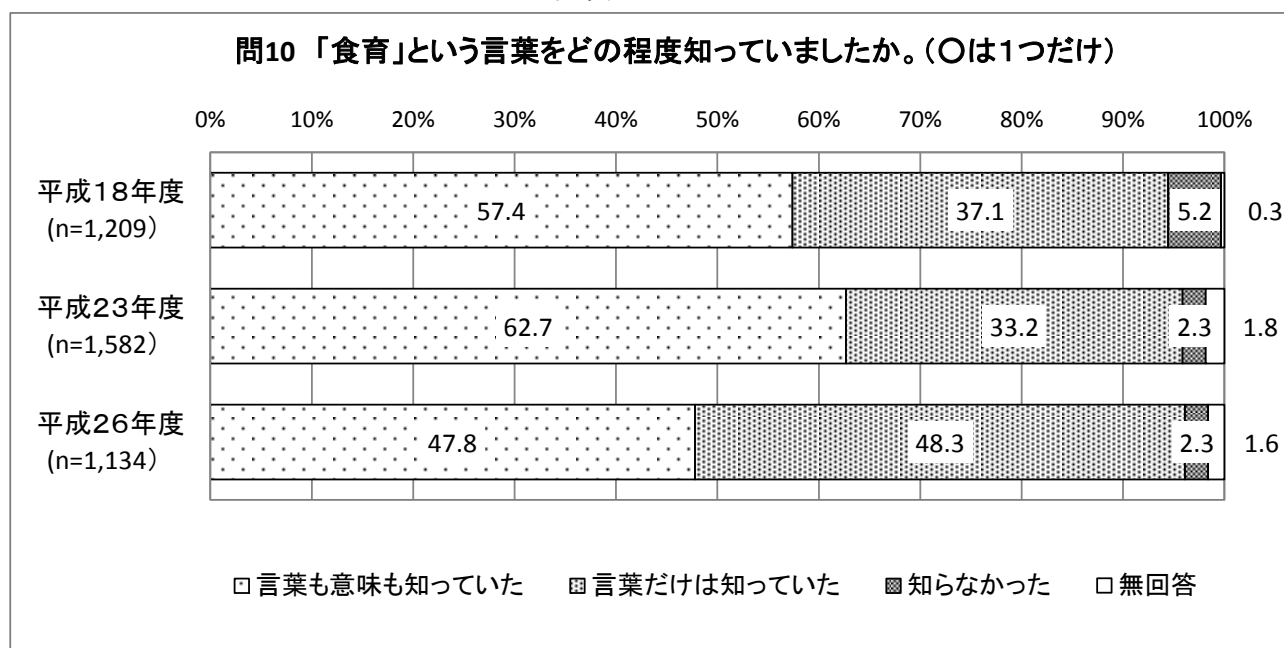
(10) 食育の認知度

10 あなたは「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」が9割強

保護者に、「食育」という言葉をどの程度知っているか聞いたところ、96.1%が「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）と回答しているが、「言葉も意味も知っていた」の割合は47.8%と、平成23年度調査から減少している。（図表Ⅲ-2-1）

図表Ⅲ-2-1



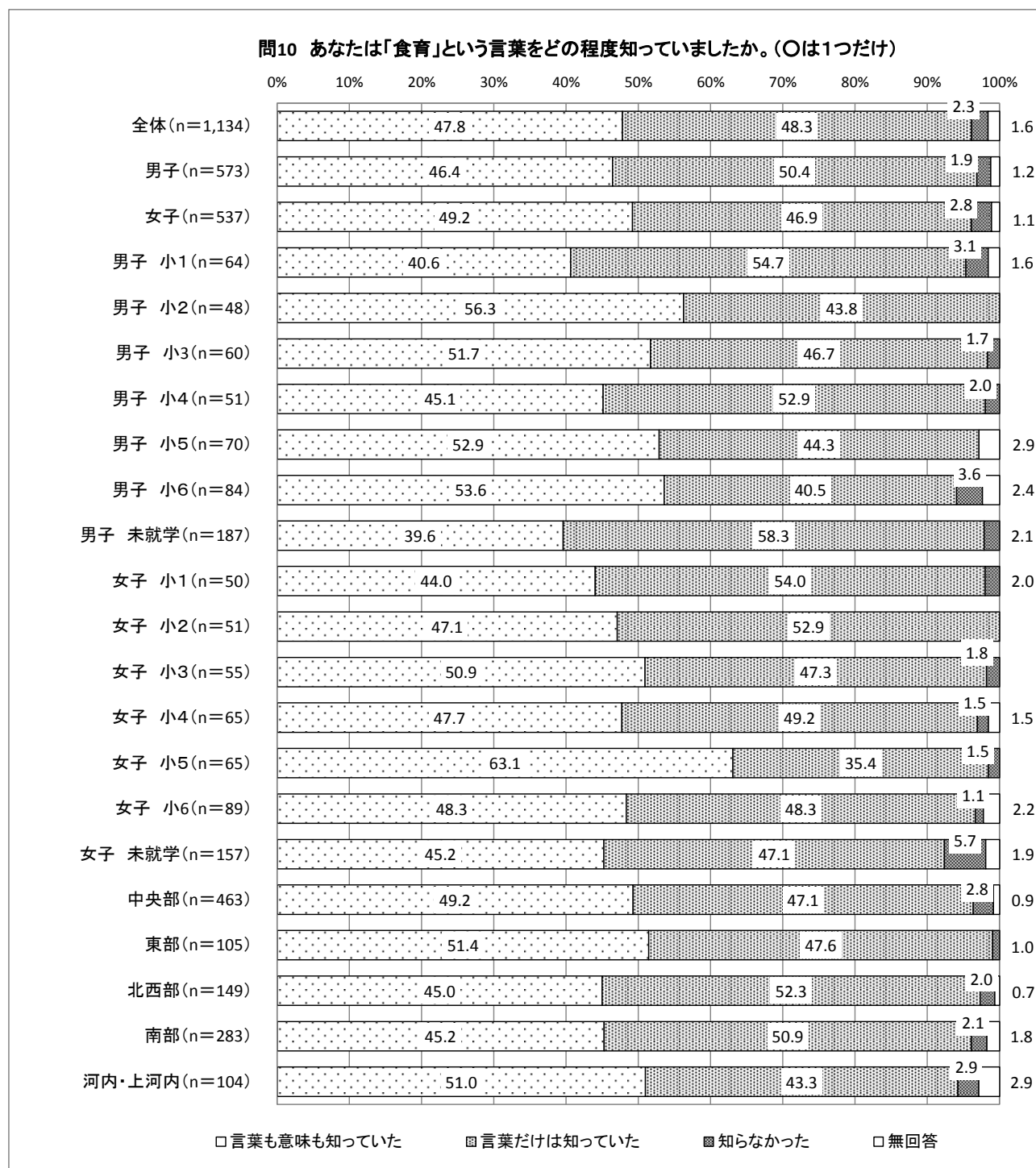
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）で、男女ともに「小2」で100%だった。また、その他の学年でも9割以上の割合となっている。

居住地区別では、全地区において「知っていた」の割合が9割以上となっている。（図表Ⅲ－2－2）

図表Ⅲ－2－2



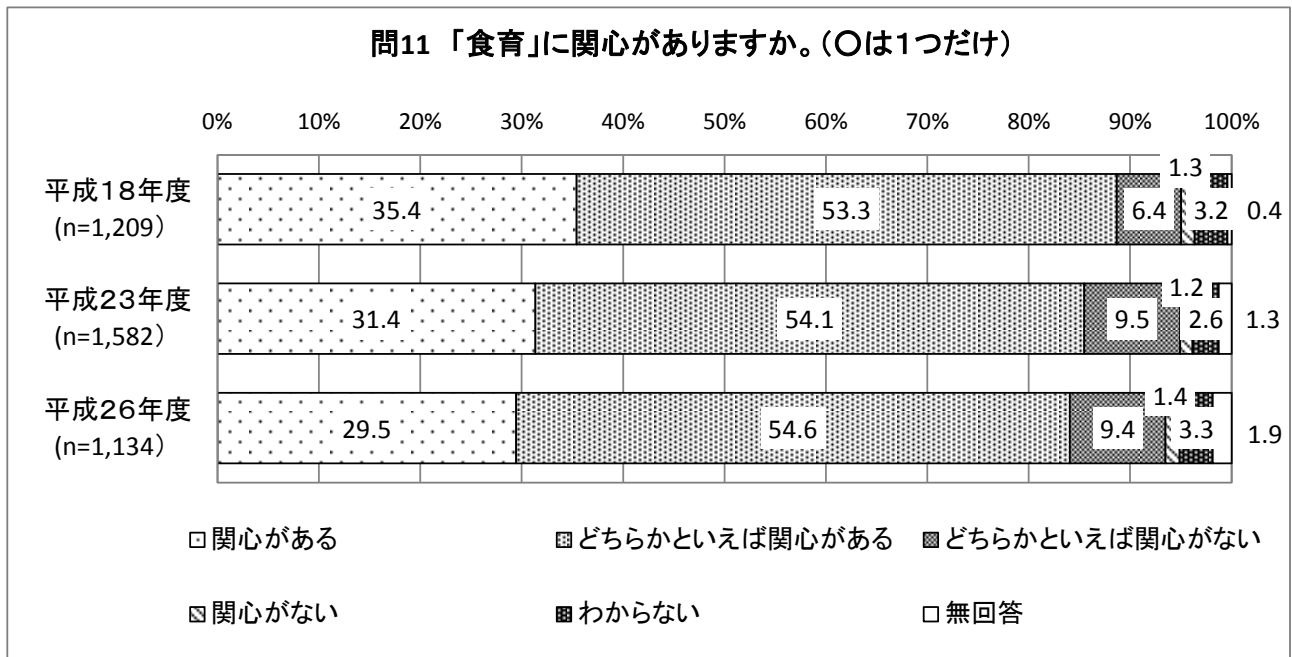
(11) 食育の関心度

11 あなたは「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が8割台半ばで減少

食育への関心度は、「どちらかといえば関心がある」(54.6%)が過半数を占めているが、「関心がある」(29.5%)は、平成18年度調査、平成23年度調査からは減少の傾向にある。一方、「関心がない」(「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」の合計)は微増している。(図表Ⅲ-2-3)

図表Ⅲ-2-3



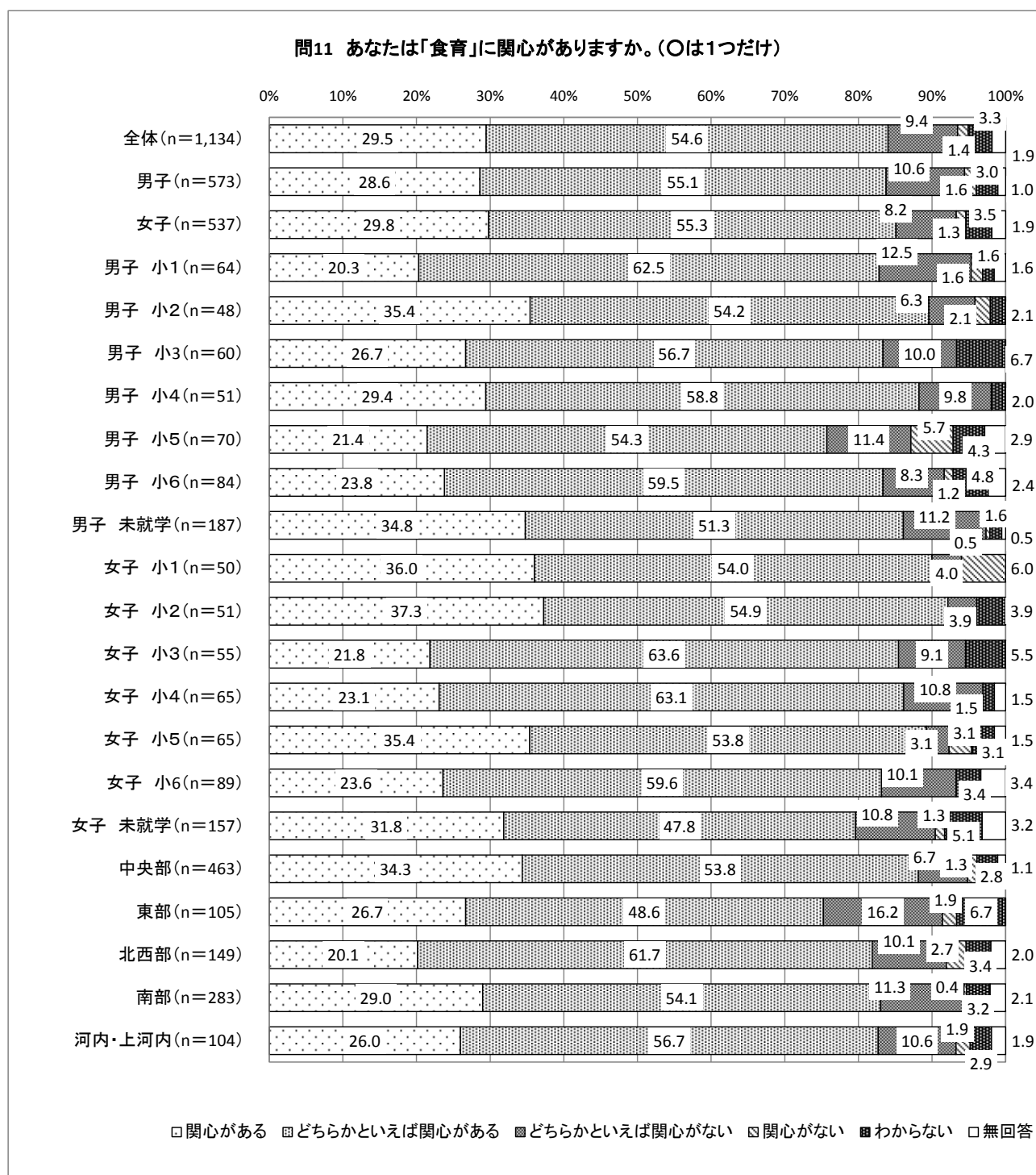
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、「関心がある」の割合は、全学年で約8割、または8割以上を占める高い割合になっており、なかでも、「女子小1」と「女子小2」では9割を超えている。

居住地区別では、「東部」の「関心がある」の割合が他地区に比べ若干低くなっている。(図表Ⅲ-2-4)

図表Ⅲ-2-4



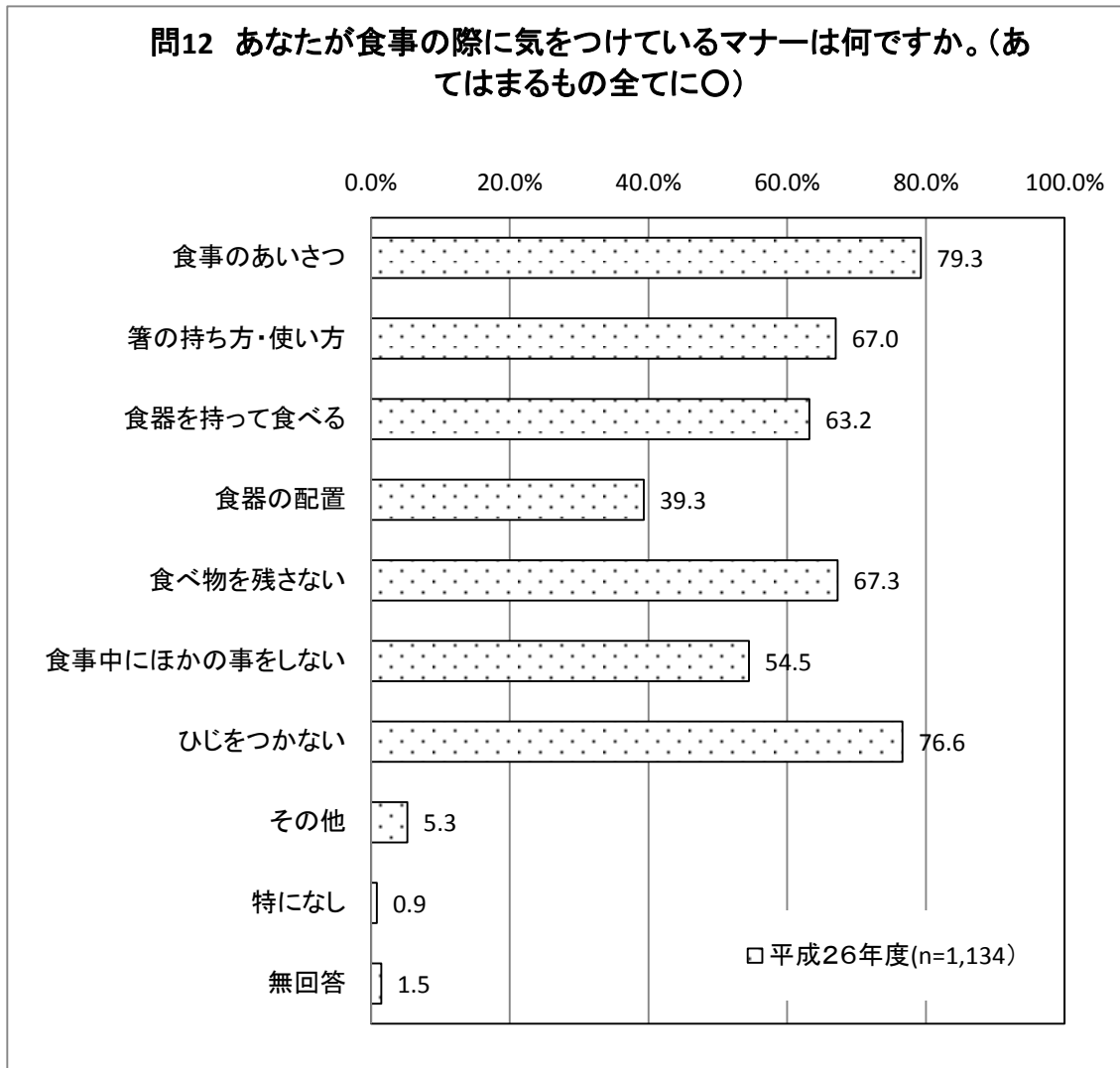
(12) 食事の際のマナー

12 あなたが食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食事のあいさつ」が約8割

食事の際に気をつけているマナーについては、「食事のあいさつ」(79.3%)が最も多く、次いで「ひじをつかない」(76.6%)、「食べ物を残さない」(67.3%)となっている。(図表Ⅲ-2-5)

図表Ⅲ-2-5



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

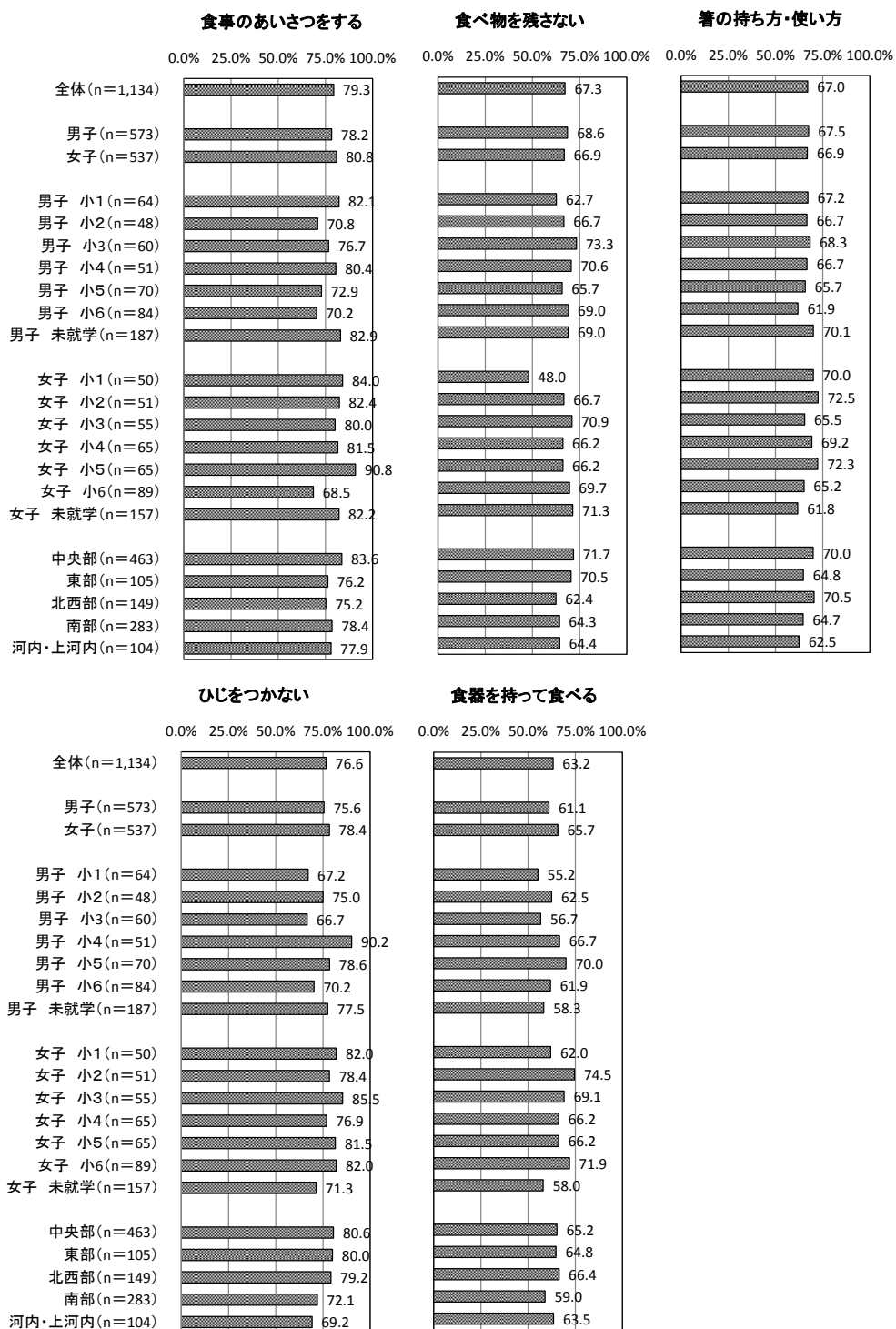
子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、女子は全学年で「食事のあいさつ」の割合が8割を超えているが、「女子小6」では68.5%と低くなっている。また、「男子小4」では「ひじをつかない」の割合が9割を占めており、高い割合となっている。

居住地区別では、「中央部」で「食事のあいさつ」の割合が、他地区に比べて高くなっている。

(図表Ⅲ－2－6)

図表Ⅲ－2－6



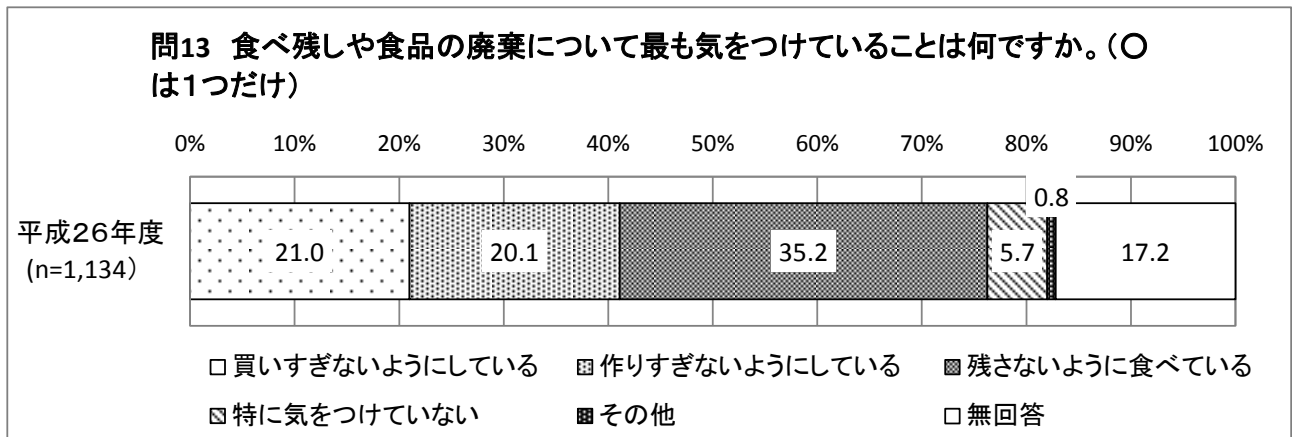
(13) 食べ残しや食品の廃棄への関心

13 食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは何ですか。

◆「残さないように食べている」が3割強

食べ残しや食品の廃棄について最も気をつけていることは、「残さないように食べている」(35.2%)が最も多く、次いで、「買いすぎないようにしている」(21.0%)、「作りすぎないようにしている」(20.1%)となっている。(図表Ⅲ-2-7)

図表Ⅲ-2-7



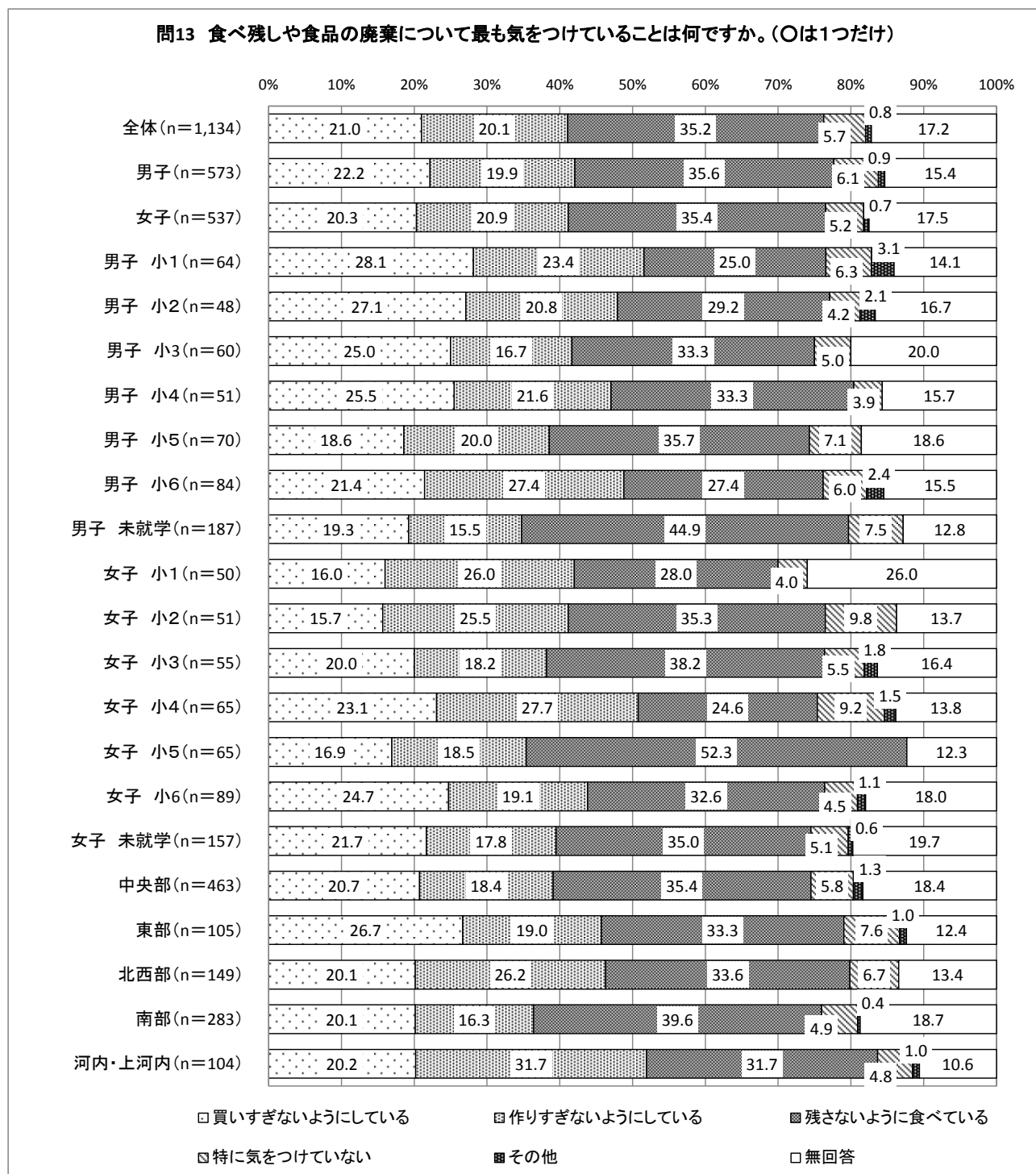
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では，男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では，「残さないように食べている」の割合が「男子未就学」（44.9%），と「女子小5」（52.3%）と他学年に比べ高くなっている。

居住地区別は，「東部」では，「買いすぎないようにしている」（26.7%）が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅲ－2－8）

図表Ⅲ－2－8



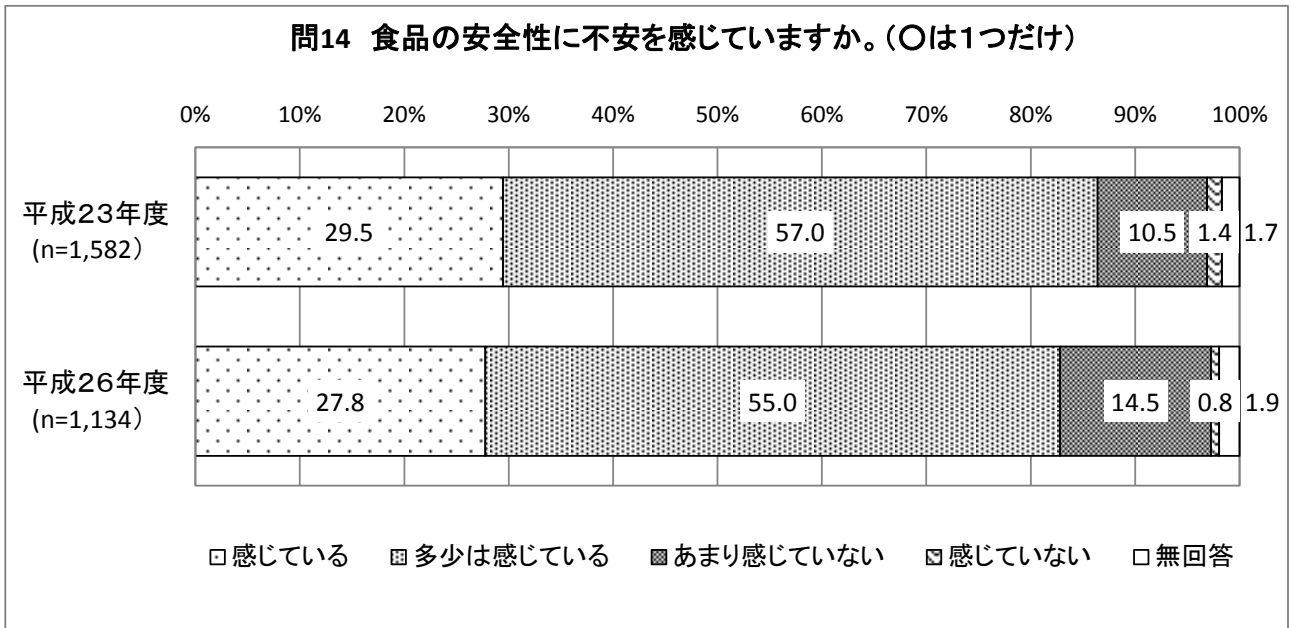
(14) 食品の安全性への不安

14 あなたは食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が減少

食品の安全性に不安を感じているか聞いたところ、「感じている」（「感じている」と「多少感じている」の合計）が82.8%と、平成23年度調査から減少している。一方、「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）は15.3%と増加している。（図表Ⅲ－2－9）

図表Ⅲ－2－9



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

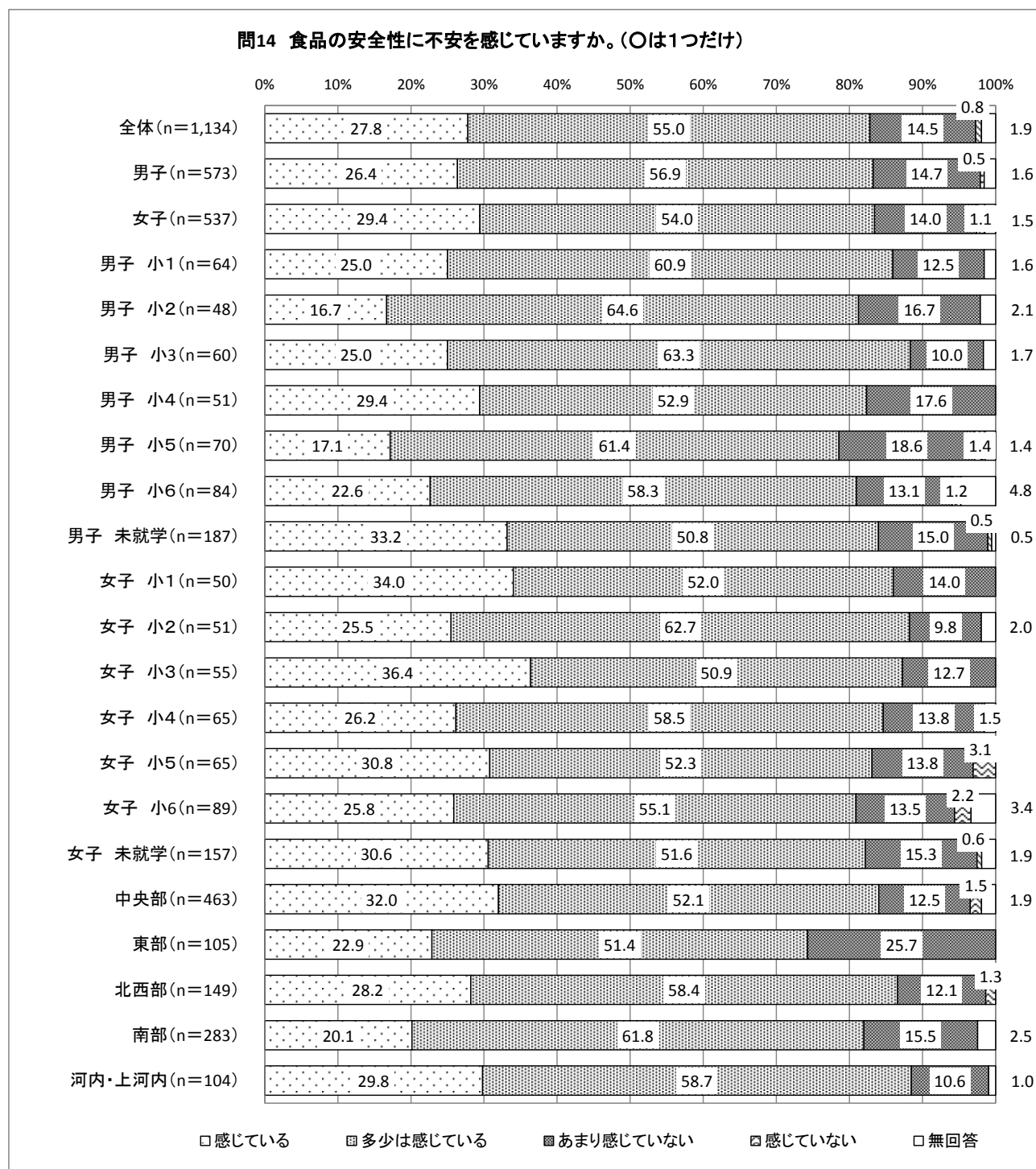
子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別では、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、全学年で8割を超えているが、「男子小5」（78.5%）では若干低くなっている。また、「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）は、「女子小2」で1割未満となった。

居住地区別では、「感じている」の割合が「東部」（74.3%）で、他地区に比べ低くなっている。

（図表Ⅲ－2－10）

図表Ⅲ－2－10



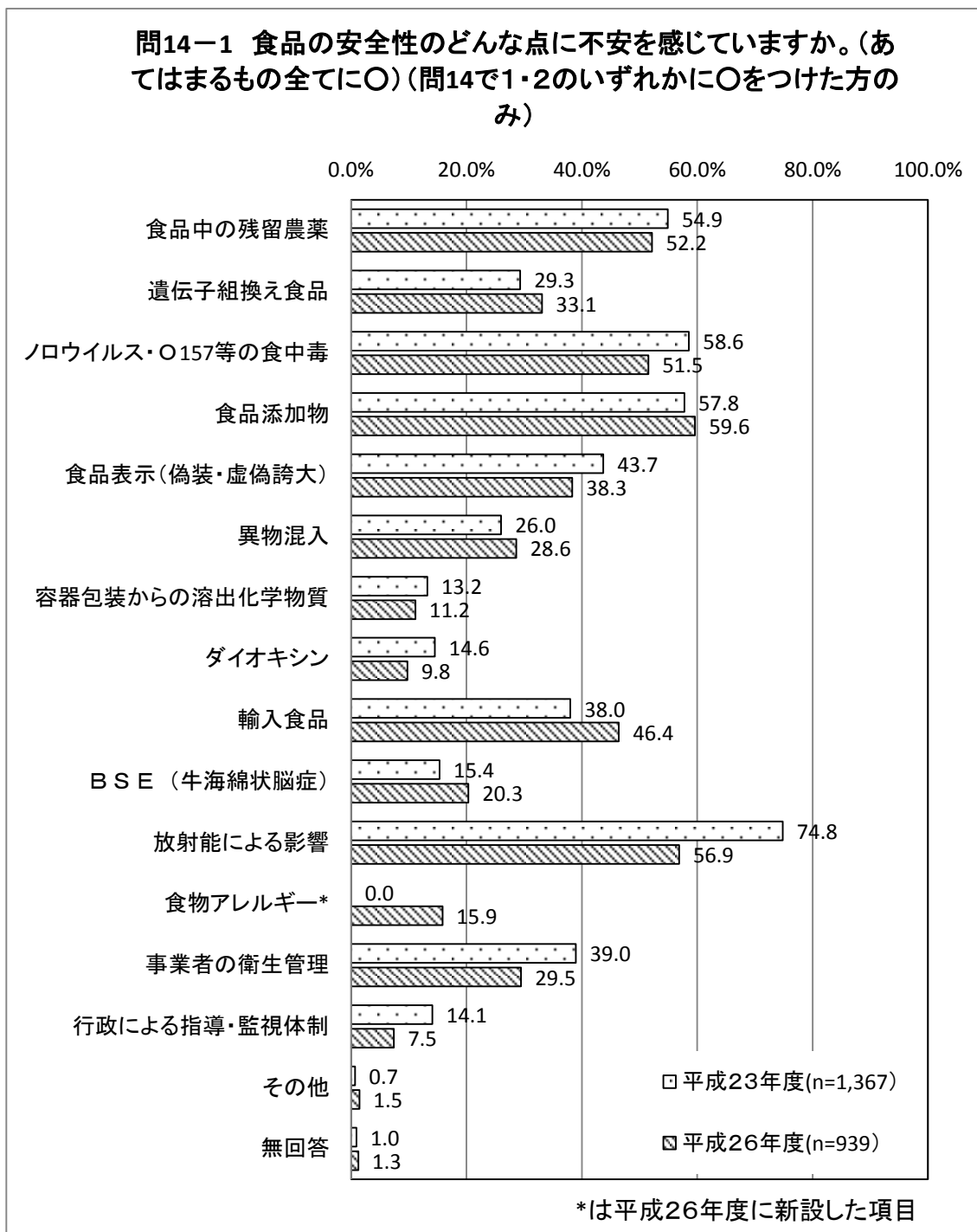
(14-1) 不安の内容

14-1 あなたは食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「食品添加物」が約6割,「放射能による影響」は減少

前問で「感じている」と答えた人に、食品の安全性のどのような点に不安を感じているか聞いたところ、「食品添加物」が59.6%と最も多く、次いで、「放射能による影響」(56.9%),「食品中の残留農薬」(52.2%),「ノロウイルス・O157等の食中毒」(51.5%)となっている。「放射能による影響」は、平成23年度調査から比較して減少している。(図表Ⅲ-2-11)

図表Ⅲ-2-11



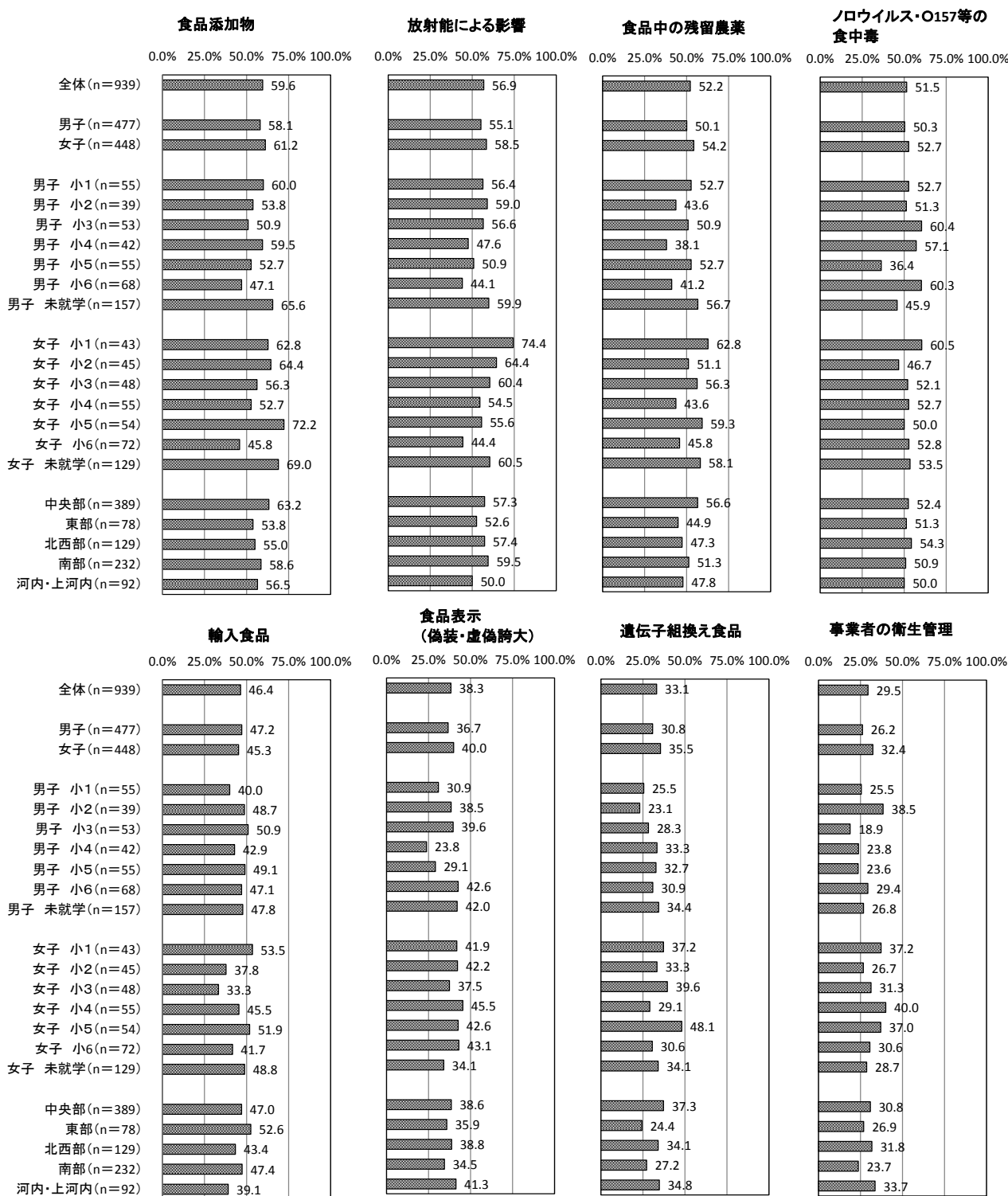
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

上位8項目を子どもの性別では、「輸入食品」以外の項目で、男子より女子の割合が高くなっている。

性・学年別では、女子の「放射能による影響」の割合が高く、学年が低いほど、割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「中央部」で「食品添加物」の割合が6割を超え、また、「食品中の残留農薬」、「遺伝子組換え食品」で、他地区に比べ高い割合となっている。(図表Ⅲ-2-12)

図表Ⅲ-2-12



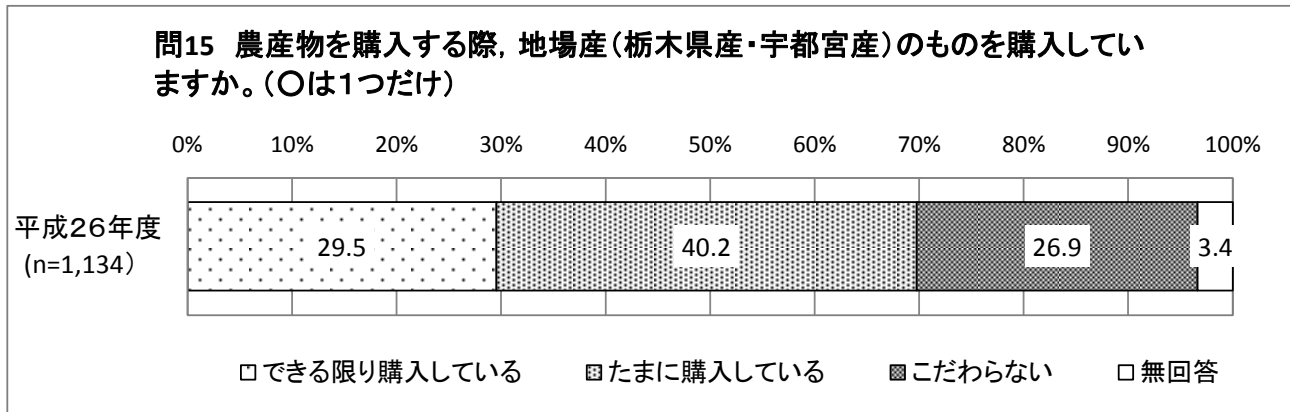
(15) 地場農産物の購入

15 あなたは農産物を購入する際、地場産(栃木県産, 宇都宮産)のものを購入していますか。

◆「たまに購入している」が4割

地場産のものを購入しているか聞いたところ、「たまに購入している」(40.2%)が最も多く、次いで、「できる限り購入している」(29.5%),「こだわらない」(26.9%)となっている。(図表Ⅲ-2-13)

図表Ⅲ-2-13



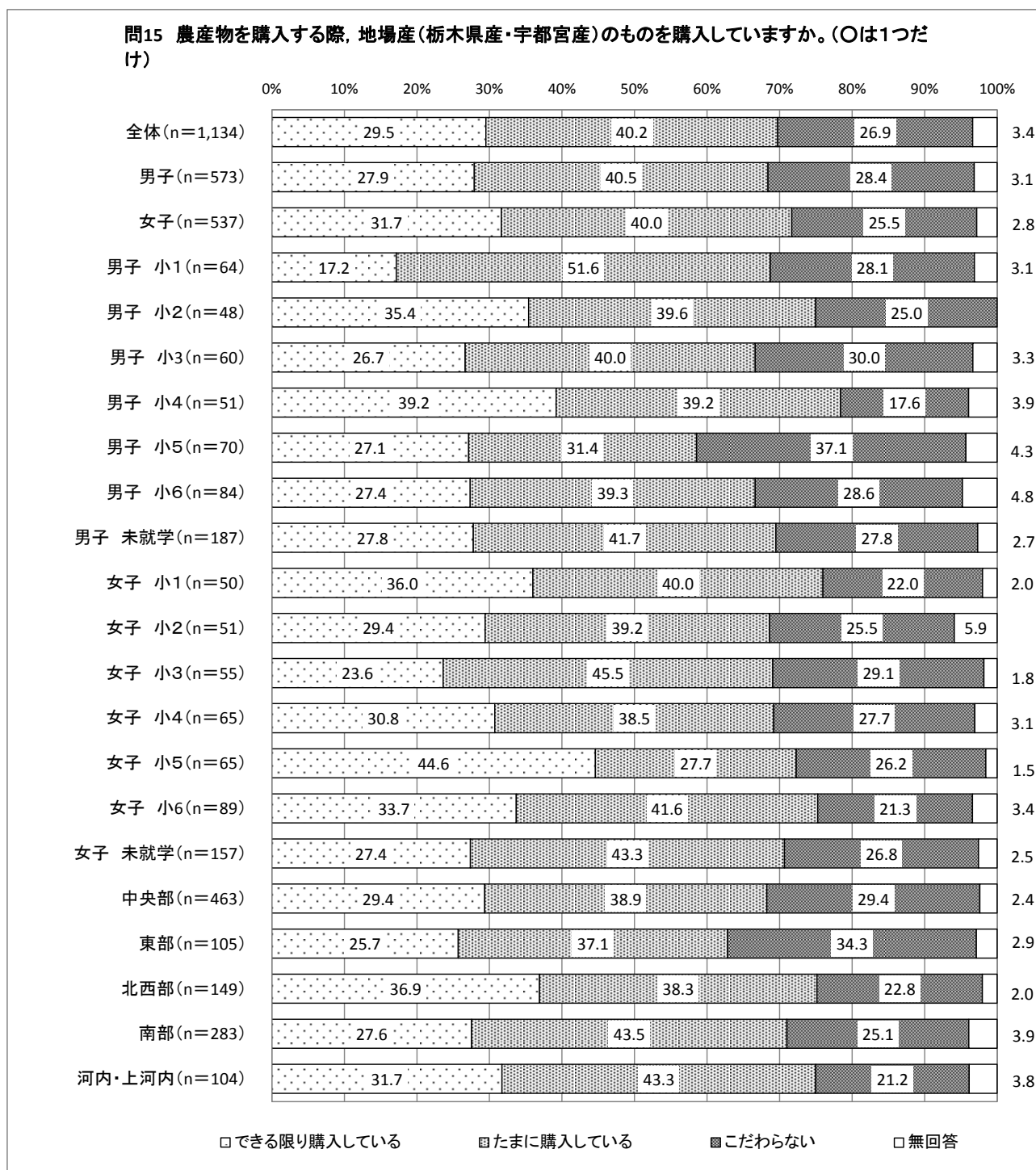
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「できる限り購入している」は、女子が（31.7%）が男子（27.9%）より約4%高くなっている。

性・学年別では、「できる限り購入している」の割合が、「男子小1」（17.2%）では他学年に比べ低くなっている。

居住地区別では、「北西部」で、「できる限り購入している」の割合が他地区に比べ高くなっている。（図表Ⅲ－2－14）

図表Ⅲ－2－14



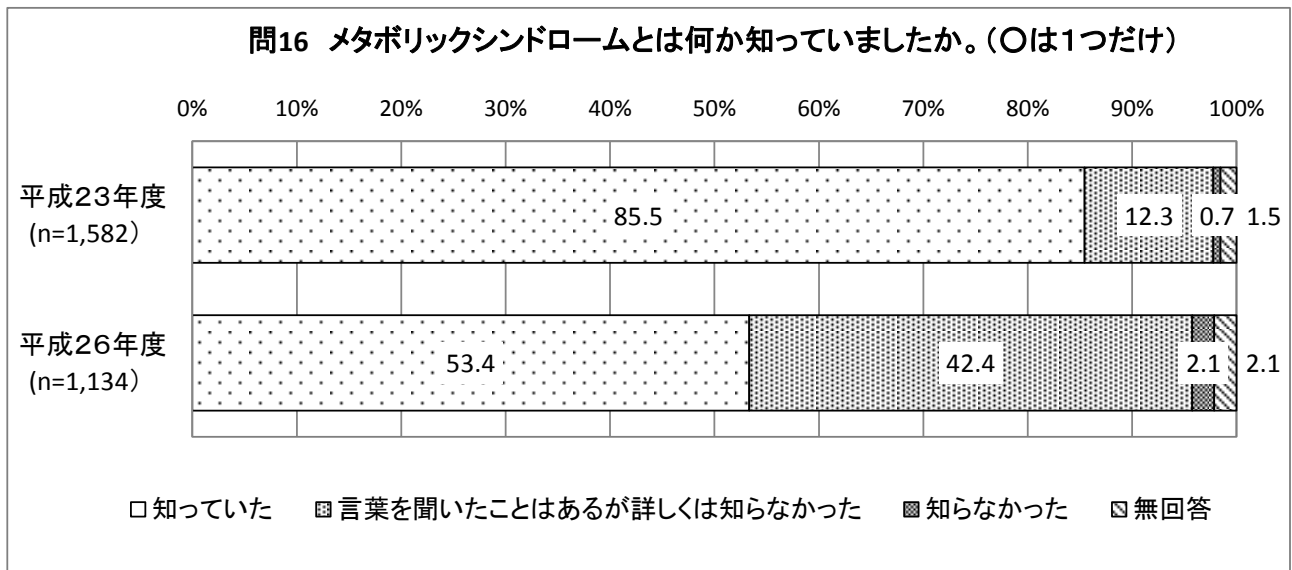
(16) メタボリックシンドロームの認知度

16 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が約半数で減少

メタボリックシンドロームの認知度は、「知っていた」が53.4%と半数を占めるが、平成23年度調査からは約32%の減少となった。また、「知らなかった」(2.1%)は1.4%増加している。(図表Ⅲ-2-15)

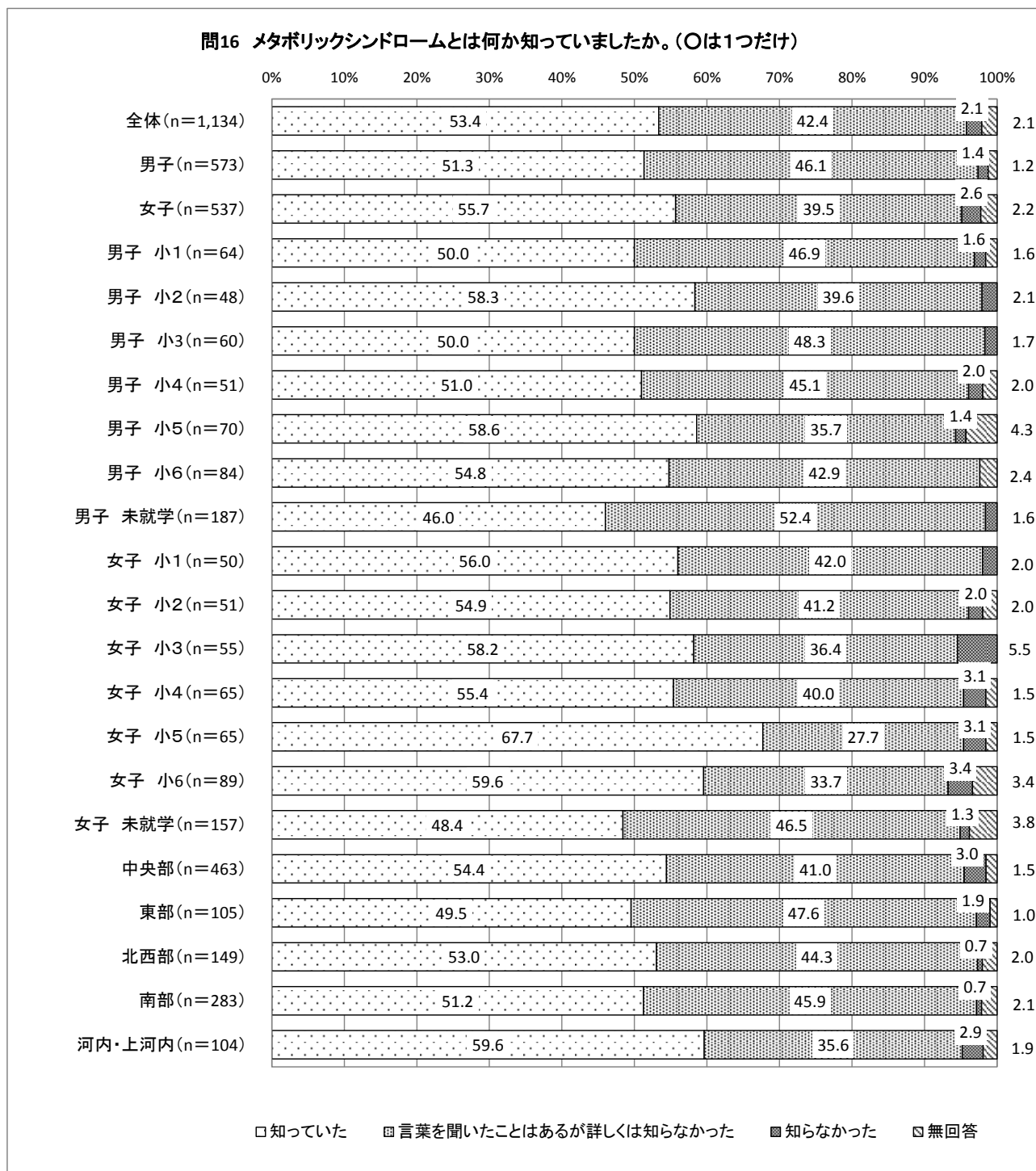
図表Ⅲ-2-15



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別・学年，居住地区全てで「知っていた」の割合が高くなっているが，「男子未就学」では，「言葉を聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」（52.4%）が「知っていた」（46.0%）を上回っている。（図表Ⅲ－2－16）

図表Ⅲ－2－16



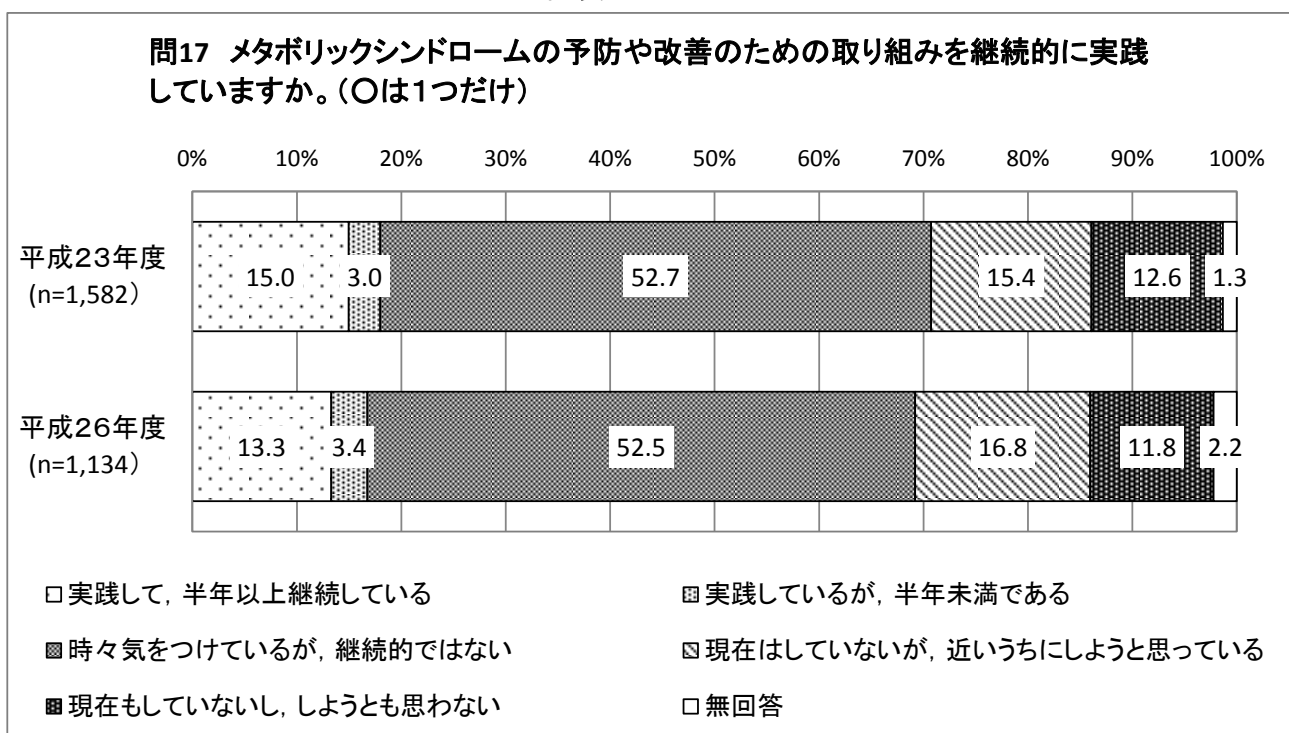
(17) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践

17 あなたはメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践していますか。

◆「時々気をつけているが、継続的ではない」が半数以上

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続性は、「時々気をつけているが、継続的ではない」(52.5%)が半数以上を占めている。次いで、「現在はしていないが、近いうちにしようと思っている」(16.8%)となっており、平成23年度調査と同様の傾向となっている。(図表Ⅲ-2-17)

図表Ⅲ-2-17



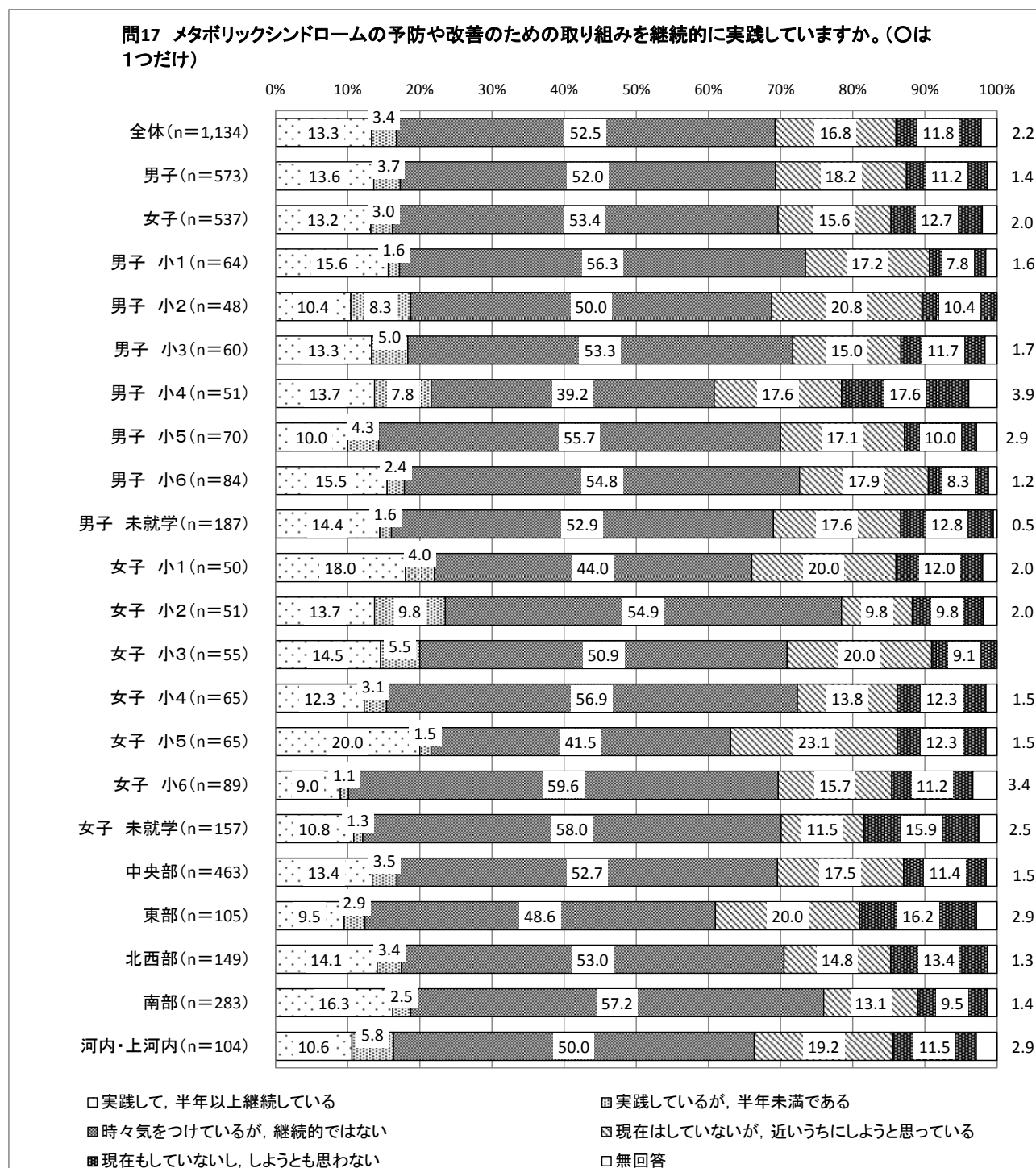
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、男女間で大きな差は見られない。

子どもの性・学年別では、男女とも「時々気をつけているが、継続的ではない」が5割前後を占めている。「男子小4」では、「現在もしていないし、しようとも思わない」(17.6%)の割合が他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「東部」では「実践して、半年以上継続している」が1割に留まっている。(図表Ⅲ-2-18)

図表Ⅲ-2-18



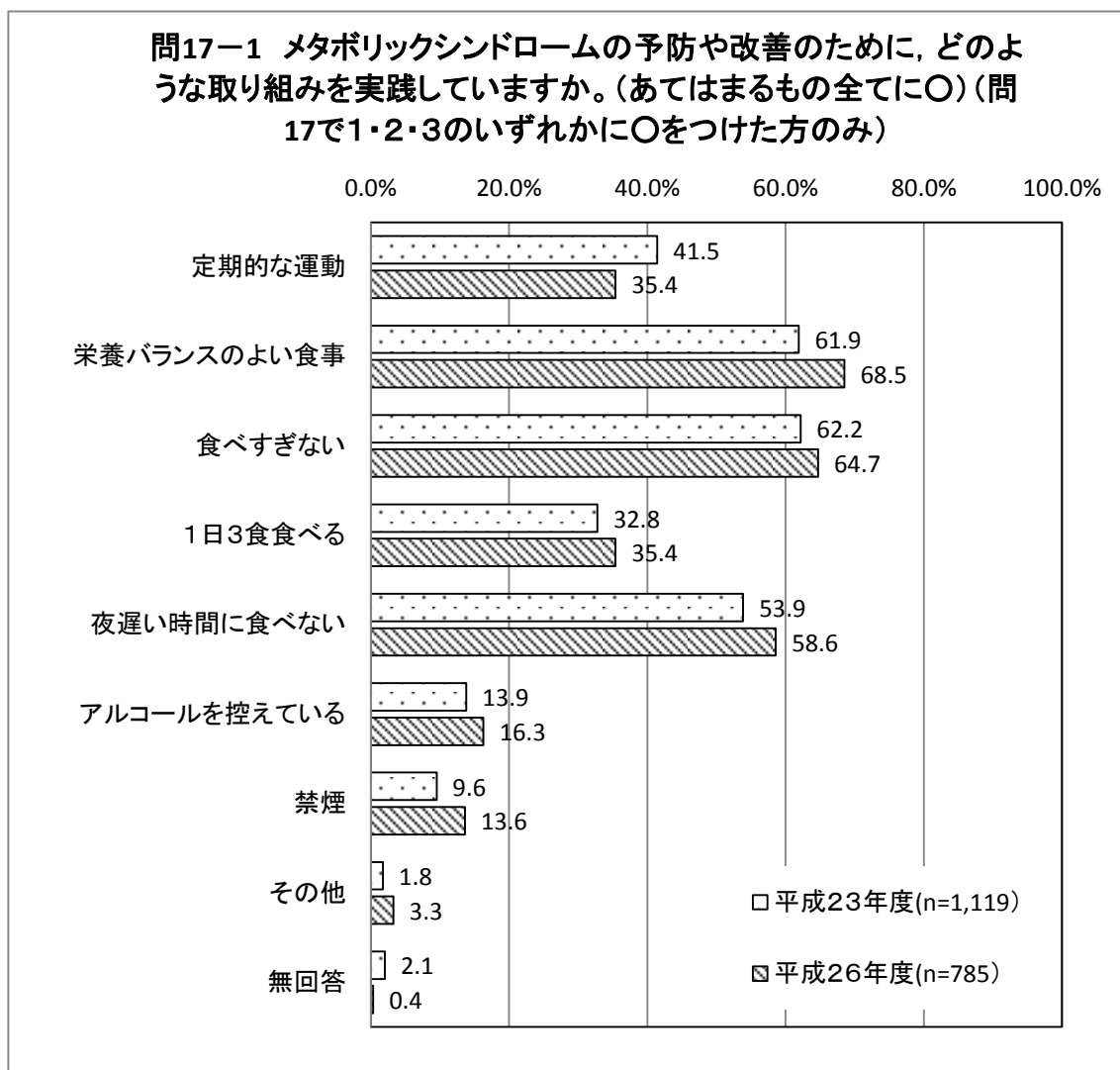
(17-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組

17-1 あなた（保護者）はメタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組を実践していますか。

◆「栄養バランスの良い食事」が約7割

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組は、「栄養バランスの良い食事」（68.5%）が最も多く、次いで「食べすぎない」（64.7%）、「夜遅い時間に食べない」（58.6%）となっている。（図表Ⅲ-2-19）

図表Ⅲ-2-19



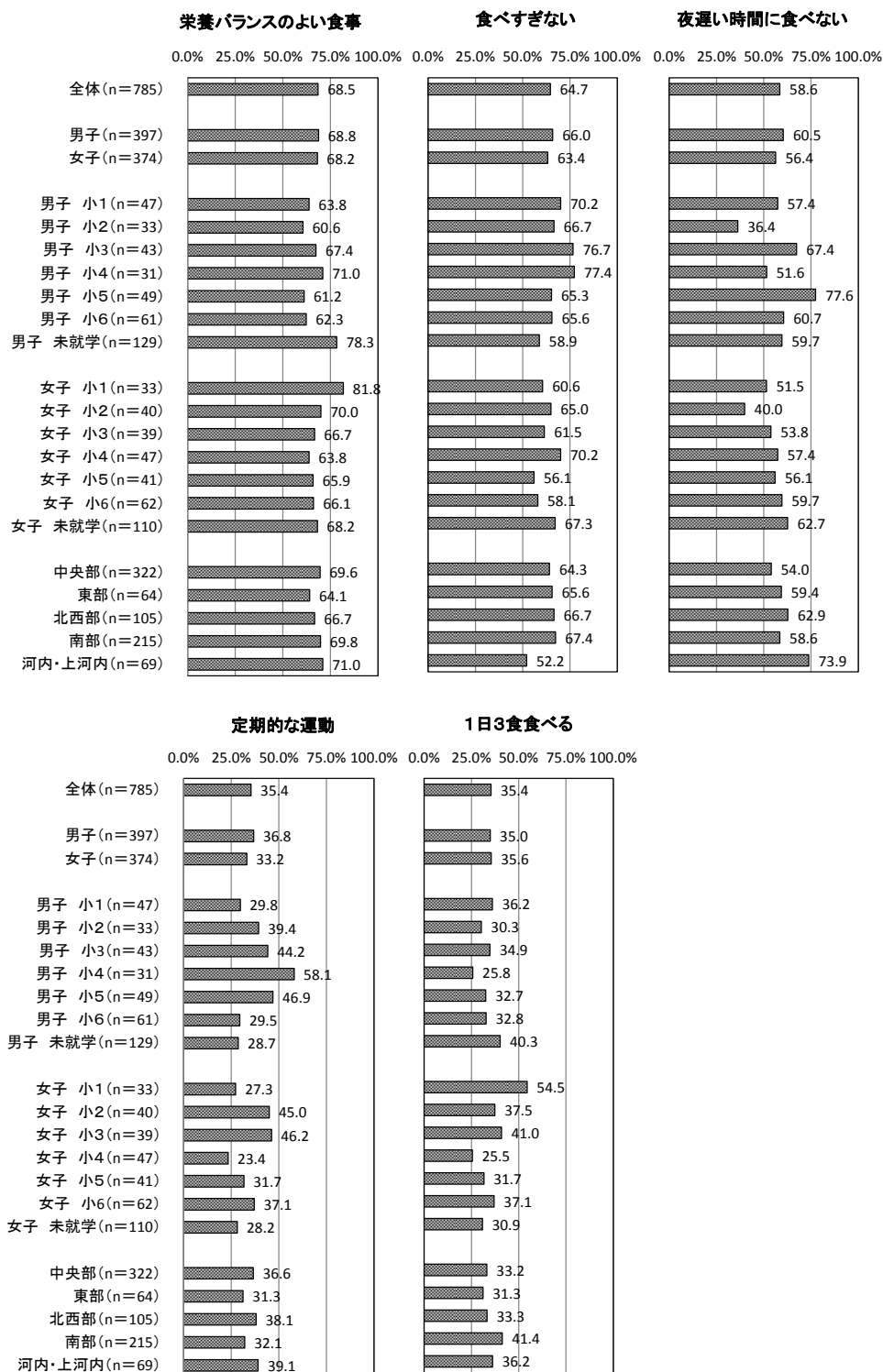
【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「夜遅い時間に食べない」で、男子（60.5%）が女子（56.4%）より約4%高くなっている。

子どもの性・学年別では、「女子小1」で、「栄養バランスのよい食事」（81.8%）が8割台、「男子小4」で「定期的な運動」（58.1%）が、他学年に比べ高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で、「夜遅い時間に食べない」（73.9%）の割合が他地区に比べ高くなっている。また、「食べすぎない」（52.2%）の割合は他地区に比べて低くなっている。（図表Ⅲ－2－20）

図表Ⅲ－2－20



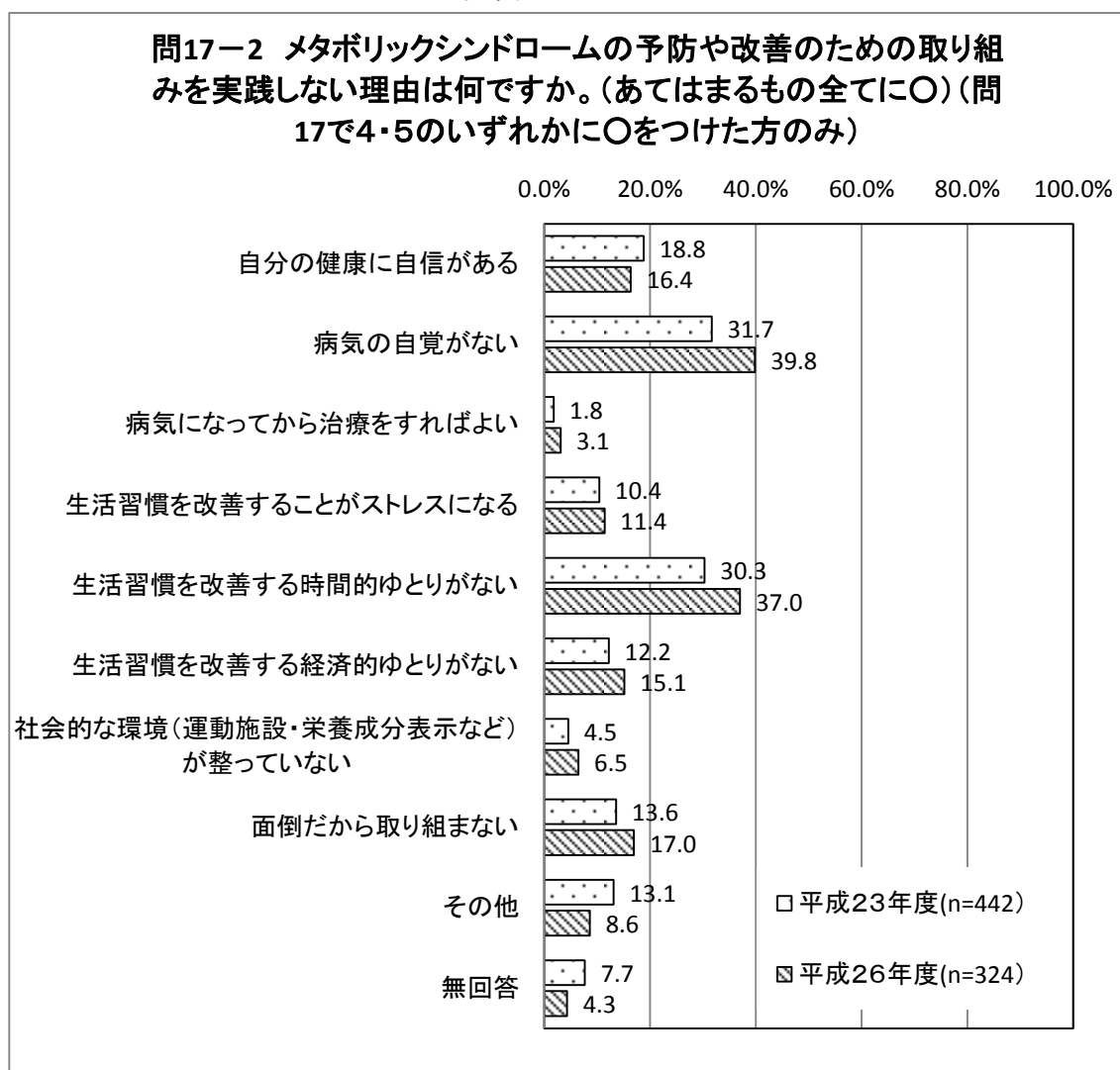
(17-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由

17-2 あなたがメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は何ですか。

◆「病気の自覚がない」が約4割

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は、「病気の自覚がない」(39.8%)が最も多く、以下、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」(37.0%)、「面倒だから取り組まない」(17.0%)、「自分の健康に自信がある」(16.4%)となっている。(図表Ⅲ-2-21)

図表Ⅲ-2-21



【子どもの性別／性・学年別／居住地区別】

子どもの性別では、「面倒だから取り組まない」の割合で、男子(19.0%)が女子(15.1%)より若干高くなっている。

子どもの性・学年別では、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」の割合で、「男子小2」の66.7%が突出している。

居住地区別では、「南部」で「自分の健康に自信がある」(37.5%)、「面倒だから取り組まない」(35.9%)が他地区に比べ高くなっている。(図表Ⅲ-2-22)

図表Ⅲ-2-22

